

# あるワンダラーの山日記

1961年（昭和36年）から日記が始まり  
 1998年（平成10年）には一旦筆を置く  
 でも還暦を迎えて再び動き始めています

1992年に写本作業を2週間かけて実施

2008年8月に電子化作業を終える

これは、ある記録マニアの山日記の復刻版である

2008年8月10日 公開

2008年8月20日 再更新

最後のページに、茗溪堂発行の山日記（現在は絶版）の  
 （日本の山と三百名山一覧）1ページ分があります

# 山日記



1985

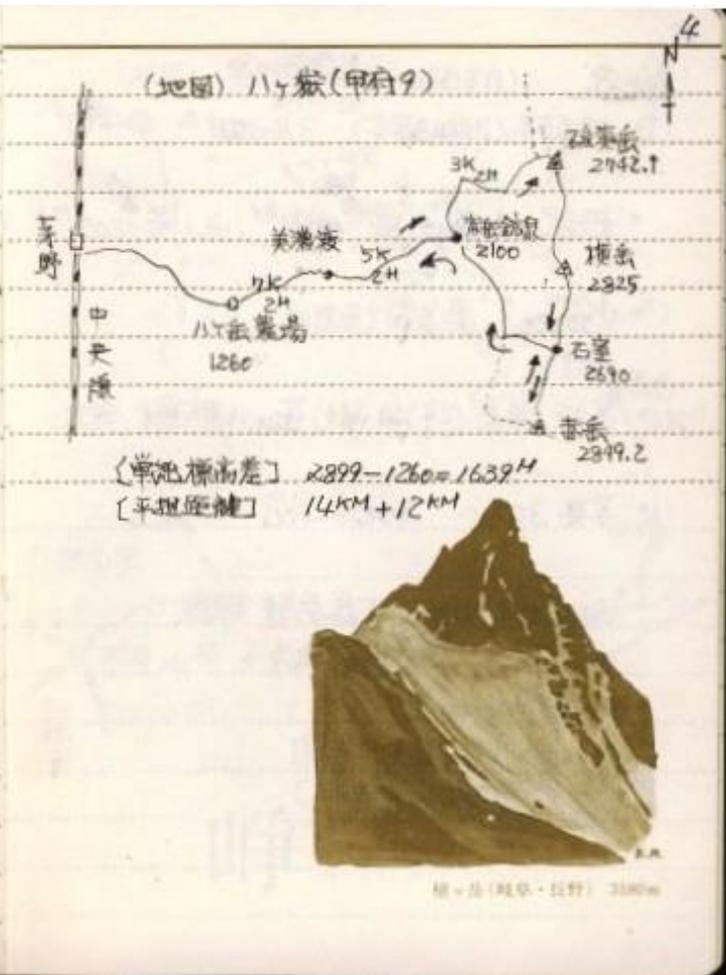
日本山岳會

No	内容	西暦	ページ	No	内容	西暦	ページ	No	内容	西暦	ページ
No.1	景信山	1961	1~2	No.19	木曾路南菩薩	1967	47~48	No.37	白馬岳	1973	72
2	八ヶ岳	1961	3~4	20	大室山	1967	49	38	西穂高岳	1973	72
3	丹沢	1963	5~6	21	奥多摩	1967	49~50	39	北アルプス	1975	73~74
4	飯盛山	1965	7~10	22	吾妻野山	1967	50	40	筑波山	1985	75
5	高松山	1965	11~14	23	天城山	1967	51	41	那須高原	1986	75
6	北八ヶ岳	1965	15~18	24	浅間山	1967	52	42	白馬岳	1988	75
7	自神山、岩手山	1965	19~22	25	屋瀬	1967	53~54	43	瑞牆山	1990	76
8	八甲田山	1965	23~24	26	飯豊	1967	55~56	44	筑波山	1991	76
9	南八ヶ岳	1965	25~26	27	大菩薩	1968	57~58	45	富士山	1992	77~93
10	入笠山	1966	27	28	北アルプス北部	1968	59~60	46	磐梯山	1992	102~111
11	御坂山塊	1966	29~30	29	笹ヶ峰	1969	61	47	富士山	1993	112
12	丹沢	1966	31	30	白峰三山	1969	63~64	48	茅ヶ岳	1993	113
13	小金沢車峰	1966	33~34	31	越後三山	1969	65~66	49	安達太良山	1994	114~115
14	丹沢	1966	31	32	鳳凰三山	1970	67~68	50	筑波山	1994	116
15	奥日光	1966	31~32	33	奥秩父	1970	69	51	甲斐駒ヶ岳	1995	
16	北アルプス	1966	35~42	34	針ヶ岳	1971	70	登山記録集計 日本百名山 194~95 山日記 日本名山 100~101			
17	北アルプス	1966	43~44	35	鹿島槍岳	1971	70				
18	奥秩父	1966	45~46	36	唐松、五稜岳	1971	71	伊予三山(ボリビア・アンデス) 6439m			

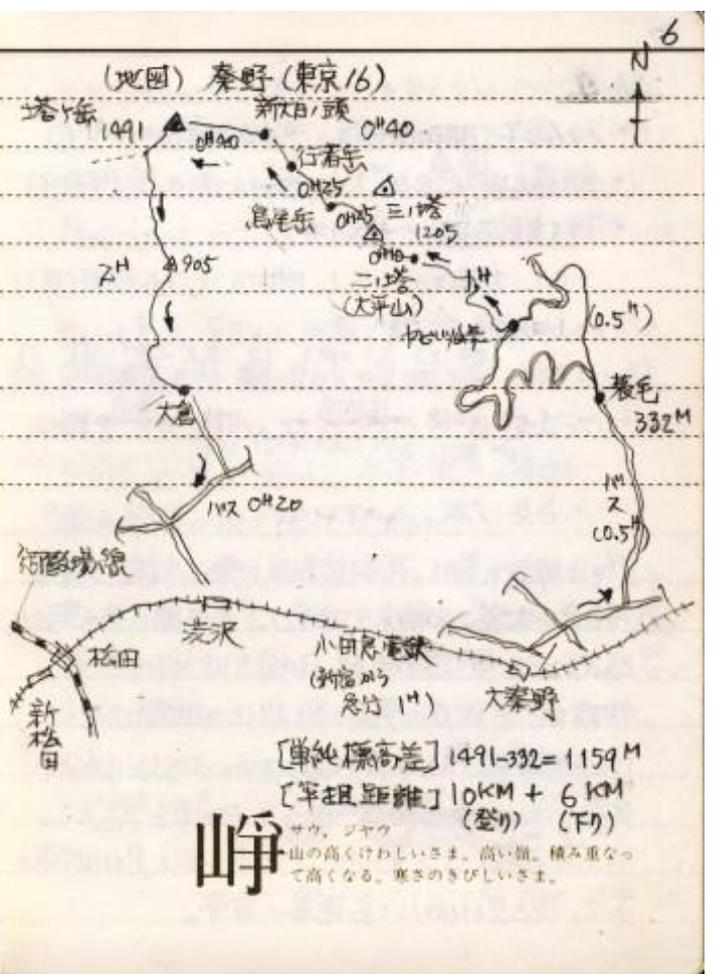
以下の番号やページ数は、上記内容と合致しています。



3  
 No. 2. (日本百名山 No. 64) ①  
 1961年(昭和36年) 夏  
 ② 2741.2 M ③ 2825 M ④ 2899.2 M  
 八ヶ岳 (碓氷岳, 横岳, 赤岳)  
 1/50000 八ヶ岳(甲府9)  
 高校1年 生物部 夏季採集会  
 写真2枚 布地アルバム  
 斎藤寛, (OB) 青藤大貴, 中西, 桐原, 石原  
 (OG) 金原  
 (3年) 近藤, 内田 (2年) 杉山, 小林, 守岡, 山田,  
 加藤, 金森, 伊東, 村時 (伴) 安西, 嶋, 文島, 秋  
 初めの登山(3000M弱), 初めのテント  
 キッチン生活



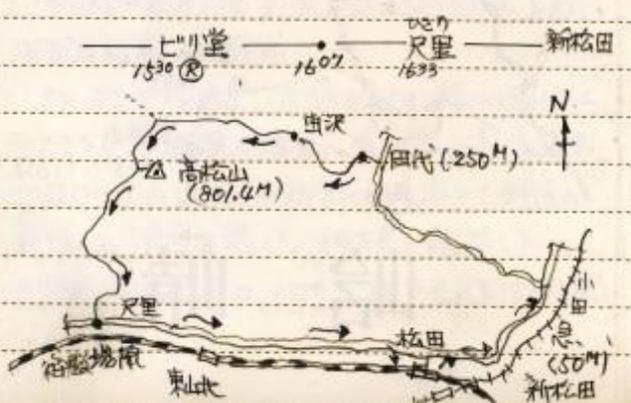
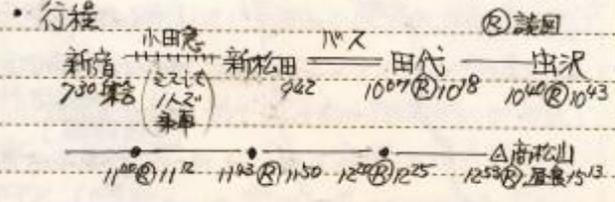
5  
 No. 3. (日本百名山 No. 71) ②  
 1963年(昭和38年) 3月30日 O→O  
 丹沢 (塔ヶ岳 1491M, 三塔 1205M)  
 1/50000 秦野(東京16)  
 高校2年末 (2年3組 級) 苗山, 小黒, 真木, 鈴木  
 写真3枚 布地アルバム  
 WUSYニキから大学受験勉強  
 とら法で 気さくな友人と登山と  
 計画1-2カ所。





No.5.

- 1965年(昭和40年) 5/16(日) ●\*
- 高松山 (801.4M), 50000 秦野(東京16)
- 読図Ⅳ 大学1年
  - 1~4隊 4隊に所属
  - 写真 2枚 山AFRICA ￥500円



[単独標高差] 801-250=551M  
 [平面距離] 4KM(登り)+3KM(下り)

集合した頃は、あんなの小雨がはらつき、早や興味半減になってしまった。

磁石と地図を併せての山登りは、未だかつてしたことなかった。やがてともせいせい地図持参位である、いやそんな面倒なものを併せていかなった方が多かたかも知れぬ。

それもそのはず、私は、いつも誰かの後について登っていたから。

それは兎角、読図とは面倒臭い所もある。

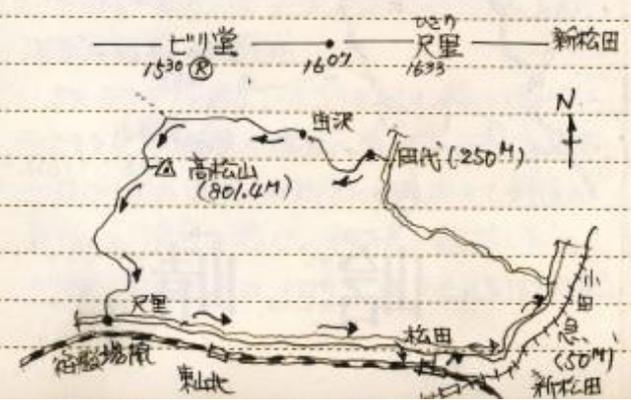
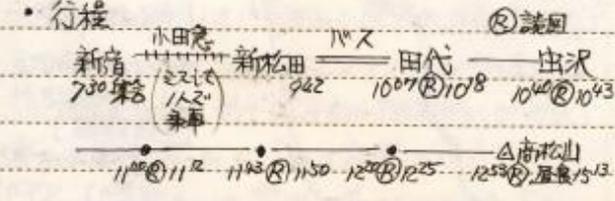
- \* 1965年 5/8 気象講習会
- 5/9 合同レニシ
- 5/12 読図Ⅳの説明会
- 5/19~5/25 合宿のためのレニシ



瑞見岳(静岡・長野) 3046.9m

No.5.

- 1965年(昭和40年) 5/16(日) ●\*
- 高松山 (801.4M), 50000 秦野(東京16)
- 読図Ⅳ 大学1年
  - 1~4隊 4隊に所属
  - 写真 2枚 山AFRICA ￥500円



[単独標高差] 801-250=551M  
 [平面距離] 4KM(登り)+3KM(下り)

集合した頃は、あんなの小雨がはらつき、早や興味半減になってしまった。

磁石と地図を併せての山登りは、未だかつてしたことなかった。やがてともせいせい地図持参位である、いやそんな面倒なものを併せていかなった方が多かたかも知れぬ。

それもそのはず、私は、いつも誰かの後について登っていたから。

それは兎角、読図とは面倒臭い所もある。

- \* 1965年 5/8 気象講習会
- 5/9 合同レニシ
- 5/12 読図Ⅳの説明会
- 5/19~5/25 合宿のためのレニシ



瑞見岳(静岡・長野) 3046.9m

多少は面白い所もある。前者は、言うまでもなく、そして後者は、自分が、地図で当てた山(尾根)などが、的中していた時(然し、何時も当たらずには、いけないのだから)である。

何につけても云えるのは、少々面倒な事でも苦勞は遂行すれば、習得後の楽しみが、増すことは、明らかである。

FR"人間社会"に於て完全なものは存在し得ないから、進歩の過程において、振り返って見て、現在の状態が、過去のそれよりも優れているのを発見できたら、満足できるだろうし、亦その時点で、更に未来へ伸びる跳躍台となるかも知れない。

昼休みのスタンプは、大変傑作であった。1年生も4年生も皆意気投合して、くつろいだ。

終りの一言、読図を充分できるような

コースであったが、尺里以後の時間を浪費した点は、考えてもらいたいと思う。

(1992, 8.30 転記再録)

別なXEより

尺里に到着。バス停で相当待つ。新松田駅に到着した時、後続の隊が仲々来ない。1~2H 歌を歌って時間をつぶした。実にもくもくとした。(勉強家ではない。FR"人生の寿命を縮めてしまったので文句を云っているのだ。) カタン、ゴトと揺られながら、1440位かかって新松田駅に到着する。読図をマスターせす!!

# 崩

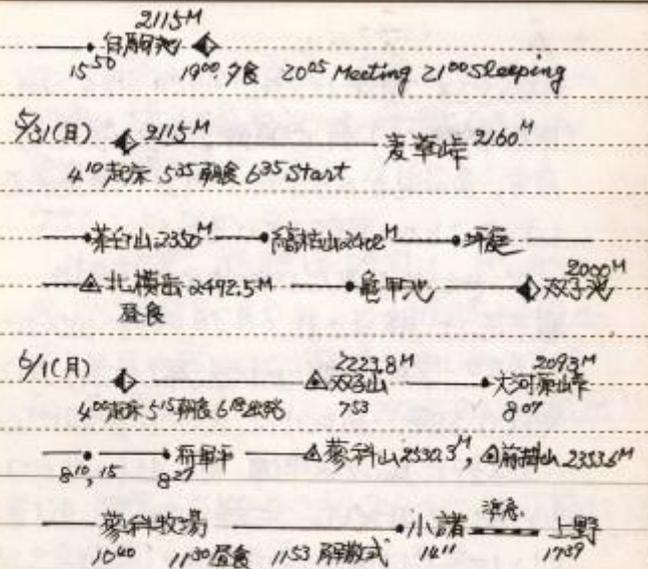
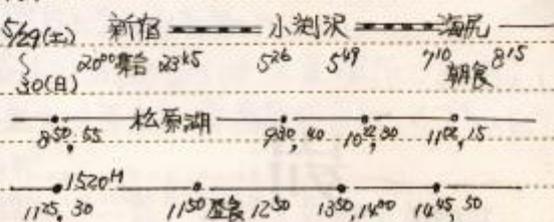
リ  
さかみち。上り下りの坂道。  
山のひくく長くつづくさま。沙丘のさま。

## No.6

(日本百名山 No.63) 蓼科山③

- 1965年(昭和40年) 5/29(土)~5/11(火)
- 北八ヶ岳 1/50,000 蓼科山(長野12)
- 茶臼山 2360M, 高栢山 2402M, 横岳 2472.5M
- 大嶽 2282M, 双子山 2223.8M, 蓼科山 2330.3M
- 前栢山 2353.6M, ( ) 1872.5M
- 新人合宿 大学1年
- C.L. 馬形, S.L. 八島, M. 下村, 北村
- 1~7班 98人
- 班長 岡村, 杉本, 中島, 小林, 秋山, 岡田, 平沼, 尾坂
- 班員 田中, 鈴木, 坂本, 大井, 尾崎, 鈴木
- 多寡 0枚 ¥635 + 200(合宿費)

### 行程



# 峭

セウ  
けわしい。高い。けわしい坂。急坂。  
まびしい。はげしい。気性が激しい。せっかち。あざやかなさま。

実察のこと、相当バテた。6月2日 腹をこわし  
(医者の診断: 下痢は風邪, これは復冷え,  
疲労, 食へ過ぎから来た) 1日中寝込んで  
しまったことが実証している。

が、かえてこの思いかげない休暇で、  
寝不足は解消され6月3日以降他人が  
(6月2日 学校にまじゆに出席した者) コッ!  
やっている時、私だけ、まことに快調になれ  
工学部においての準備、買い出し(の点に入って  
少し触れてみたい。生鮮食品の買い出し等は  
別として、共同装備を整理して、生鮮食品以外  
の物の買い出しなどは、もっと早い時期にやれば  
どうだろうか。というは、その目アケが  
に無理があったように思われるからである。  
遠くから通学している人や、下宿している人にと  
巻いて、時間的、身体的に余裕が欲しい。か  
一考を。

どうも僕は、あの堅い、直角、そして狭い  
列車の椅子(座席)では、安眠できない。  
色々、寝る方法を考えてみたが、どうも  
うまくいかなかった。

その結果、熟睡した時間は、せいぜい  
2~3時間だろうか。この睡眠時間が  
ま1日目の登山に、相当ひびいたのでは  
ないだろうか。 (1992年8月31日 転記)

結構大してできしないうのに、一丁前に  
文句だけは云っているなあ。  
思い出した、小諸駅前でお食へた  
ラーメンライス 美味しかった。



アモペンタ(イラン) 5604m

No.7 (日本百名山 No.10) 岩木山 ①

- 1965年(昭和40年) 7/18(日)~7/30(金)
- 白神山系, 岩木山 など 津軽方面

"東北訪問"

	鯉ヶ沢 (鯉ヶ沢16)	五所川原 (五所川原12)
深浦 (深浦1)	川原平 (川原平13)	弘前 (弘前4)

- 夏合宿
- 1~⑦隊
- 水隊(31名) 自神, 園石, 園石
- P.L. 下村, S. 北見, M. 尾川, 上野, 飯村
- 写真 0枚 ¥2570 + 2820

• 行程

7/18(日) 上野 19:25 急行水戸線

7/19(月) 秋田 7:25 奥羽本線 東能代 9:00 津軽線 10:00 盛岡黒山崎

7/20(火) 白神山尾根 — 白神岳 — 向白神岳

7/21(水) 大峯岳 — 崩山 — 十二湖

- 7/22(木) 十二湖 — 十湖 — 岩崎海岸 — 中山峠 — 深淵
- 7/23(金) 深淵 津軽 8km — 洞平 — (川原平)
- 7/24(土) 停滞
- 7/25(日) 水戸線 — 岩木山頂
- 7/26(月) 一足沢 (10:20 20:20)
- 7/27(火) 停滞
- 7/28(水) 板柳 五所川原 黒石 — 温泉
- 7/29(木) 一?
- 7/30(金) 一酸湯温泉

**岩 木 山**

ハク、ヒヤク  
山に草木の茂  
っているさま。  
山がくすれる。

- 大聖山  $\Delta 841.1^M$  (深津), 白神岳  $\Delta 1231.9^M$  (川原平),
- 大峰岳  $1014^M$  (川原平), 崩山  $\Delta 939.9^M$  (川原平),
- 追分森  $1139^M$  (30前), 岩木山  $\Delta 1625.2^M$  (30前),
- 巖屋山  $1456^M$  (30前),



“夏合宿の目標” (オオ隊誌15のせり文)

項目別に列挙すると次の通り。

1. 横糸田のワタリノと体験し、其のワタリノを築
2. 東北地方(奥村岩村山村)の住民の生活についての考察
3. ワタリノに必要な知識・技術の習得

次に長年組にどうの目かについて述べると、オオ項目の  
あるは、停滞目などをと利用して家庭を訪問し、話し合い  
又交歓会と利用してみようと思つてゐる。一果に自分の  
期待しているものが得られるかどうかは別にして、  
このようなこととしてどうなるのかという疑問が生じてくる。  
考へてみると直ぐに益にふらふらな中にも、ある問題  
と意識して考察することは、(機会とどうして) 無駄な考察  
かどう判断するは  
難い(か)長目  
見れば、いつかは  
人生に役立つものと思つ。



大山(鳥取) 1729m  
長い時間と有効性のとるお努力した。 (1992.8.31 転記)

No. 8. (日本百名山 No.11) ⑤

- 1965年(昭和40年) 7/31 ~ 8/8
- Part Wandering 奥ノ瀬 東北三太郎
- (経) (E1) (E1) (E1) (E1)
- 天童, 徳茂, 松川, 和時, 鈴木, ...
- 写真1枚 山のPUSA
- 行程  
酸ヶ湯温泉 — 大岳 — 奥ノ瀬 —  
十和田湖 — 秋田(等灯祭) — 弘前  
青森(ねぶた祭) — 仙台(七夕祭) 見か
- 地図  
青森県(経4), 八甲田山(経1), 十和田湖(経2)
- 大岳  $\Delta 1584.6^M$  八甲田山の1つ

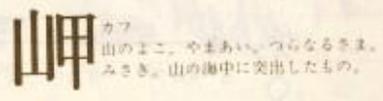
添田久弥 日本百名山 161. 八甲田山 57

八甲田という名称は、この山の性質と現わしている。  
前岳, 田茂尾岳, 赤倉山, 井戸岳, 大岳, 小岳, 石倉岳,  
高田大岳のハツル峰と、その山中の所々に湿地,

つまり、田が多いので、八甲田と名づけられたと伝えられる。  
登山というより、道邊に立ってこの山は、何となく自分の足と  
歩いて、高山植物の咲き乱れる大きな豊かな斜面や  
鐘のぶら下がる池と泉と泉と、異様な形をした  
アモリトマツの林や、そんな場所をめぐってこそ  
真価が、納得できよう。

一番高いのは大岳である。その麓にある庶民的  
温泉 酸ヶ湯から女子供でも楽しんで登ることが  
できる。本村の一番北にある山だけあって、  
頂上には、コケモミやカンコウソウの標を敷く  
高山帯である。見晴らしはすばらしい。……

(-28~27) にも再録してある。\*



山甲 カブ 山のまこ、やまあい、つらなるさま、みさき。山の奥に突出したものを。

No. 9. (日輪百名山 No. 64.) 2回目

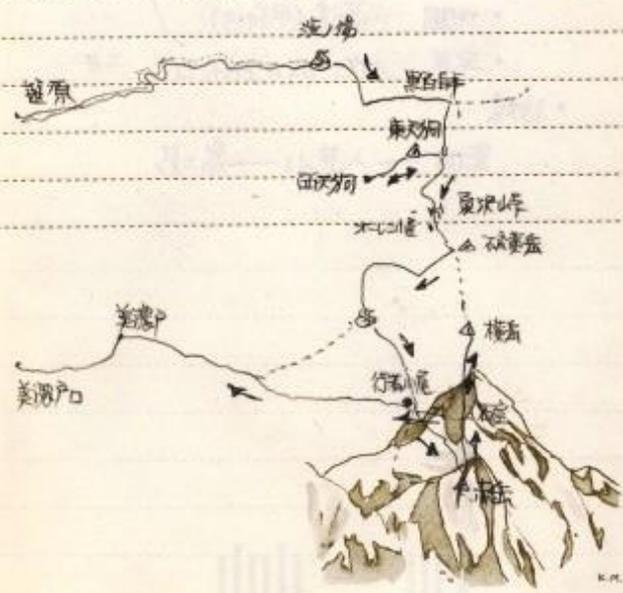
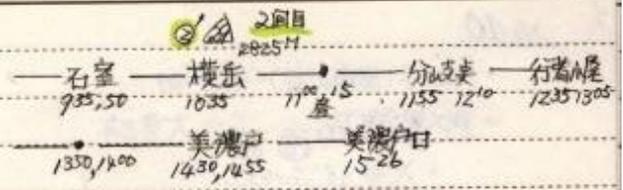
- 1965年(昭和40年) 10/12~15
- 10月の南ハヤ岳 P.W. 大学1年
  - (登3) (登2) (登2) (登1) (登1)
  - 北村, 須藤, 田中, 三浦E, 鈴木
  - 写真 6枚 山のアルバム 羊410
  - 地図 ハヤ岳(甲府9), 蓼科山(長野12)

• 行程

10/13 炭ノ湯 尾根 黒百合平  
 812 900, 15 927, 30 10, 33, 52 1102 1210  
 2645.8M 2335M  
 東天狗 ← 西天狗 → 東天狗  
 1255, 1313 1335 1340 1350 1400 1408  
 2600M 2392M  
 根子岳 夏沢峠 下ノ小屋  
 1433 1438 1450 1510 2100履

10/14 碓氷峠 川西池 28日 2742.1M  
 455履 640 700, 15 732, 47 805 830  
 川西池 357履後  
 木岳笠泉 行者小屋  
 900 履 1050 1055 9 1050 小屋 1050

10/15 上ノ小屋 蓼科山 28日 2899.2M  
 500履 735 805, 10 800 898 900



ハン・ナンブリ(中国・ソ連) 6995m

No. 10.

- 1966年(昭和41年) 4/28~29
- 新入道 P.W. 大学2年
  - 入笠山 1955.1M
  - 地図 高遠(甲府13)
  - 写真 2枚 山のアルバム

• 行程

青柳 — 入笠山 — 富士見

岫 二つの山、二山並立。  
 峽 ヤウ、アウ ふもと。山の形、山林が美しい。





8/2 0, 12°, 無風〜その凡 須砂渡〜大助小屋

歩いたのは、2ヒッチ。我が進む前方は、全宇宙と  
 配しているのよう<sup>く</sup>、腰と据えている北風が連綿と目され。  
 僕は、あの遠くから眺めたとこの山の色が一番好きである。  
 今日、その色と充分に楽しむことができたのは、大良かった。  
 秋、あの澄みきいた空の色、あゝ何と素晴らしい。眺めながら  
 僕は、そのような景色を茫然と眺めていた時、ふと自分の  
 全てを忘れては、ただ自分が、大自然に溶け込んで  
 いるかのような錯覚をしているような気がしている。その  
 気が付いた。そのような気持になるのは、滅多にないことだ。  
 今日以降も、この「生」の認識と持つのを機会  
 と多く味わいたいものだ。では、この気持が、とてな  
 るのだ。それがとうとう「人」<sup>び</sup>という方向に直ぐに出る  
 長ろうが、それは、後の日記に譲ることにする。  
 それにしても今日は暑かった。初日はとうとう「カ」<sup>手</sup>  
 あり。午後の自由時間だ、それを相殺して「カ」<sup>手</sup>は  
 思われる。肉片も十分(?)食へた。まあまあ、即ち水。

8/3 4:30 ● ホッポツ 8:00 ● 7P-7P-

今日は、全てを私にまかせられた。結構気がつかう  
 人がなめと思つた。11P-の小おさんに、14:00迄に  
 着けは良いと云われ、最初、少し早いハコスに  
 飛はしてしまつた。その為か、隊員に、ちよと不満が  
 出たようだ。雨も降り、おきるしと、うと涼しく  
 歩けたようだ。9ヒッチ。結構。

8/4 〇 後 ● + 常念小屋〜東大井〜大天井流

加藤の先頭。今日のコースは、実に楽しいが為か  
 ひどく「フ」<sup>ラム</sup>トであった。しかし合宿中に一度は  
 一人の日もあててもよからう。いつもいつも人間は、  
 緊張をたしてはくれない。

# 峠

ツ、  
 はやま。しげやま。草木の繁茂している山。  
 はげやま。はだか山。

8/5 〇 大天井流〜西岳小屋〜猪ヶ岳↔橋のオ  
 木下が先頭。1年女子2人バテる。私はL氏の  
 命令で菅野の後について、様子とみるように歩いた。女性の  
 バテ状態と推計することは、実にむづかしいと思つた。  
 私にも1年後には、Leaders 3人37P。今後の  
 ようなことも気をつけて勉強せねばならぬと思う。  
 橋までのコースは、時間的に厳しかった。木の  
 制限には、辛酸をなめた。11人で朝から、大湯まで  
 2.5時半。それもカンカン照り。ちよと無理では、  
 つかれそうか。小屋に予備の水を買って、あかきであつた。  
 それにしても、実に1日が乾いた。4度程、吐き気ともな  
 おした程だ。胃液が、口の中にあるような錯覚をたじた。  
 このようなことを経験して、感じることとは、人間とは  
 実に弱いのだから、ということである。とらぬ。ことと云う  
 人間、しかも一つ弱みと云うと、その人の実力は、  
 半分に下になり、役立たなくなってしまうことだ。  
 大湯探しに苦労した。途中、たかく食水  
 雪のうまきは、一生忘れたいだろう。

橋からの展望の素晴らしさ。夏合宿の成果の半分は  
 あつたろう。抱負に近づいた。3つの点は満された。

## 夏合宿に期待すること。

ワンケル之年目の私は、あの貴族的な北風の足  
 登高する大隊に属することになった。そこで次のような事  
 をしてやる。一つには、あの美しくかつ厳しく、おれに  
 魅せつけ、かつ安きは、自然の偉大格である北風の足に  
 全身を投ずることによって、自分を洗(了)無邪気(健康な体)  
 謙虚さ(理性に従う態度)、そして情熱的な探求心  
 (主権性および行動力、常に全との心で疑問ともし  
 自問出来る範囲で、その疑問を解くように努力する)  
 等を求めること。

これらの事は、  
 北風の足とい  
 場、時間、それ  
 数人のメンバー  
 の要素が7つの系



峠(長野・八ヶ岳連峰) 2825m



45

⑪ ⑫ ⑬  
 武信山 金嶺山 瑞牆山  
 No. 18. (昭和41年 No.67, No.68, No.69)

- 1966年(昭和41年) 10/31~11/2
- 奥秩父縦走 P.IV. 大学2年
- 三浦正, 鈴木, 偶然会った人
- 地図 (1/5万) 金嶺山(5) 三峰(1) 丹波(2) (甲府 1/20万)
- 写真 1703枚, 117-枚 1/10000

行程

瑞牆山 2230M  
 大岩山 2520M  
 朝日山 2500M  
 北奥千丈岳 3600M  
 大岩山 2520M  
 朝日山 2500M  
 大岩山 2520M  
 朝日山 2500M  
 大岩山 2520M  
 朝日山 2500M

46

武信白岩山 2280M  
 三山 2483.3M  
 瑞牆山 2230M  
 大岩山 2520M  
 朝日山 2500M  
 北奥千丈岳 3600M  
 大岩山 2520M  
 朝日山 2500M  
 大岩山 2520M  
 朝日山 2500M

白岩峰  
 シロウ、シユ  
 くれる。  
 日が沈む。  
 山のいただき、  
 山ひだ。

47

No. 19.

- 1967年(昭和42年) 3/12~19
- 木曾路 南大菩薩 P.IV. 大学2年
- 松川, 三浦朝, 鈴木 (金属工学部友)
- 写真12枚 山のP.IV

行程

3/12 東京 (366km) 急行東海2号 名古屋 名張城、市川 突然し、名古屋駅

3/13 名古屋 (80km) 中津川 落合 新茶屋 534 (220) 754

[石登] - [木曾路の碑] - [藤村記念館 大黒屋] 馬場

3/14 大津 大津 田代 倉本 河内

3/15 小野の滝 檀賞の床 樽屋 大津

3/16 費川 木曾路の碑 自然橋

温泉 買込 (大月 仮眠)

3/17 大月 浅利小倉 金山 金山 鉱泉 530 600-05 600-35 725-38

木曾道 岩所へ 沢 分岐 深谷

48

金山峠 925.08 沢 10.20.25 <炭焼小屋 直登死谷> 11.50.12.00

12.25.35 12.55.13.05 <正担部> 談田 <493.0.0.0> 13.45~14.30

雁ヶ腹 摺山 前 千掛 15.15 {川来 枯 残雪 有}

3/18 <危険箇所あり、深淵、摺山と巻> 大峠

3/19 雁ヶ腹 摺山 1857M 桑西 13.45

ふみの 野 明野 (0.30) 大月 19.52 新宿 19.09

蛇ヶ岳 (神奈川・丹沢) 1672.7m







No. 29.

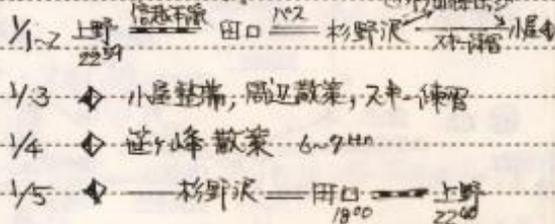
(日本百名山 No. 33)

妙高山 20

?年秋登山

- 1969年(昭和44年) 1/1~5
- 冬期小屋偵察 大宮4年
- 妙高山笹ヶ峰 (地図)妙高山(南側15)
- 近藤, 三浦, 鈴木

行程



- 1/3 小屋整備, 周辺散策, 又中一練習
- 1/4 笹ヶ峰散策 6~9時
- 1/5 杉野沢 → 田口 → 上野



ツッカーヒュートル(オーストリア) 3507m

No. 30.

(日本百名山 No. 80, No. 81)

21

22

- 1969年(昭和44年) 8/23 ~ 8/26
- 白峰三山(南岳から北岳) 大宮院1年
- 諸星, 福井, 三浦, 加中, 鈴木
- 地図 1/5万 市野原(14) 大河原(15) 新沢(11) 甲府
- 写真 170枚, カラー7枚

- 残念から 日程不明。記録も未見だから。
- ワケルOBの加中氏と同行した。
- 途中でバツタリ 偶然 会友と登山の事。
- 23年前の記憶は 仲々 又升かえらな。
- 記録見れる (92.9.6 16日 山日記) (92.9.7 山日記) (92.9.8 山日記)
- 記録同行 (92.9.6 16日 山日記) (92.9.7 山日記)

日本百名山 P392より

白峰三山という呼称は「甲斐国志」に南北へ  
 連なり三峰あり」とい記事から由来。……  
 大井川, 三峰川, 早川の三つ大きな川が、その水源



峯

タウン, タウン, コウ, ゴウ  
 小山が大山と並んで、大山よりも高いもの。  
 高山の上にある小山の、大山と並んでそれよ  
 りも高いもの。

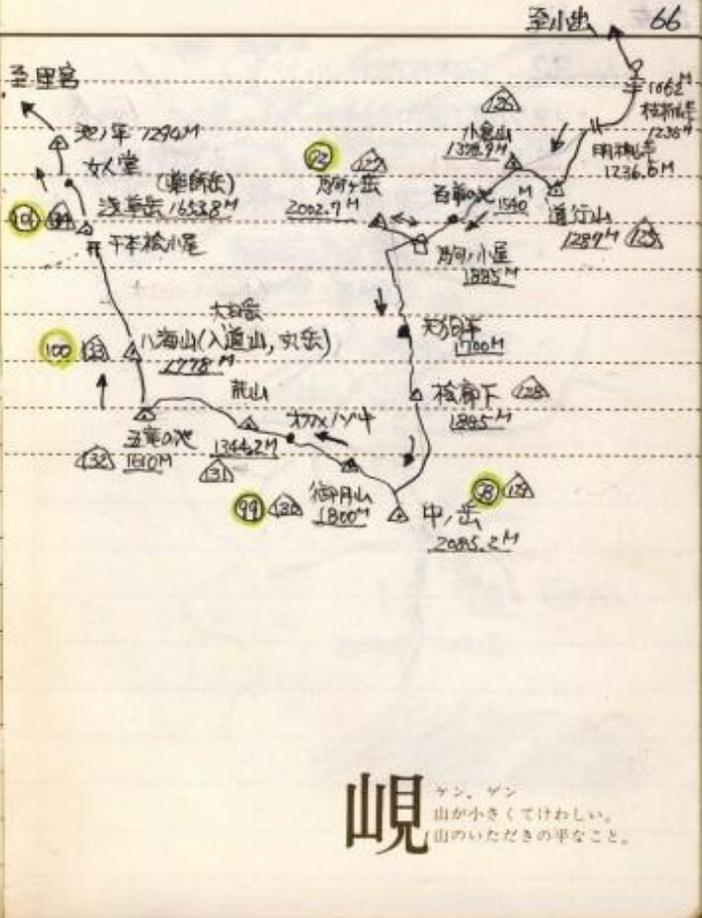
この歴史的な地名から発しているのがある。

No. 31. (日本百名山 No. 25) 魚沼郡小出 28

- 1969年(昭和44年) 9/20~23
- 越後三山縦走 大宮院1年
- L 福井, R 諸星, 小林, 松川, 三浦, 鈴木
- 大宮院 1~2年 xバー
- 地図 [十日町(借組2)] 八海山(日光14)

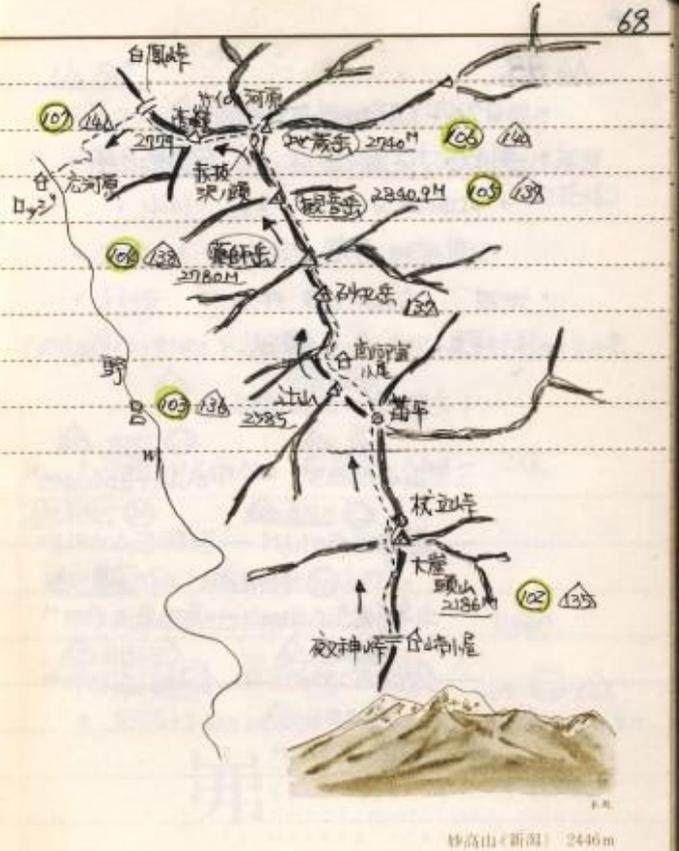
行程

9/20(土)	上野	小出	枝押寺
20:00	20:12	20:08	20:00
5			
9/21(日)	明神峠	小倉山	小倉山下
9:45	9:15	11:25	11:20
9:45	10:00	11:40	13:00
			13:15
			14:10
			15:15
			18:35
9/22(月)	分岐	天狗平	
7:00	8:40	8:50	9:05
			20:02
			1:10
			9:30
			9:40
			1:10
			1:40
			2:00
			2:10
			2:20
			2:30
			2:40
			2:50
			3:00
			3:10
			3:20
			3:30
			3:40
			3:50
			4:00
			4:10
			4:20
			4:30
			4:40
			4:50
			5:00
			5:10
			5:20
			5:30
			5:40
			5:50
			6:00
			6:10
			6:20
			6:30
			6:40
			6:50
			7:00
			7:10
			7:20
			7:30
			7:40
			7:50
			8:00
			8:10
			8:20
			8:30
			8:40
			8:50
			9:00
			9:10
			9:20
			9:30
			9:40
			9:50
			10:00
			10:10
			10:20
			10:30
			10:40
			10:50
			11:00
			11:10
			11:20
			11:30
			11:40
			11:50
			12:00
			12:10
			12:20
			12:30
			12:40
			12:50
			13:00
			13:10
			13:20
			13:30
			13:40
			13:50
			14:00
			14:10
			14:20
			14:30
			14:40
			14:50
			15:00
			15:10
			15:20
			15:30
			15:40
			15:50
			16:00
			16:10
			16:20
			16:30
			16:40
			16:50
			17:00
			17:10
			17:20
			17:30
			17:40
			17:50
			18:00
			18:10
			18:20
			18:30
			18:40
			18:50
			19:00
			19:10
			19:20
			19:30
			19:40
			19:50
			20:00
			20:10
			20:20
			20:30
			20:40
			20:50
			21:00
			21:10
			21:20
			21:30
			21:40
			21:50
			22:00
			22:10
			22:20
			22:30
			22:40
			22:50
			23:00
			23:10
			23:20
			23:30
			23:40
			23:50
			00:00



No. 32. (日本百名山 No. 79) 鳳凰山 24

- 1970年(昭和45年) 8/5~
- 鳳凰三山 大宮院2年
- 諸星, 三浦, 松川, 鈴木
- 地図 [葦崎(甲府10)] [藤沢(甲府11)]
- 写真 18枚



妙高山(新潟) 2446m

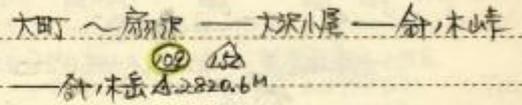
No 33.

- 1970年(昭和45年) 6/10 ~ 10/10
- 奥秩父縦走 大学院2年
- 和甲研 X 二人
- 三浦, 吉田, 安藤, 高村, ( ), 鈴木
- 地図 会峰山, 三峰, 丹波
- 行程 No 18 と類似 (No 18 (1) 追加記入)



No 34

- 1971年(昭和46年) 7/10 日帰り
- 北Pn702 針木雪渓 入社1年目 (大町在住)
- 中川, 鈴木
- 地図 大町(高山1), 立山(高山5)
- 行程



- 写真 Pn100 跡榮男 No 1 3枚

No 35. (日本百名山 No 47)

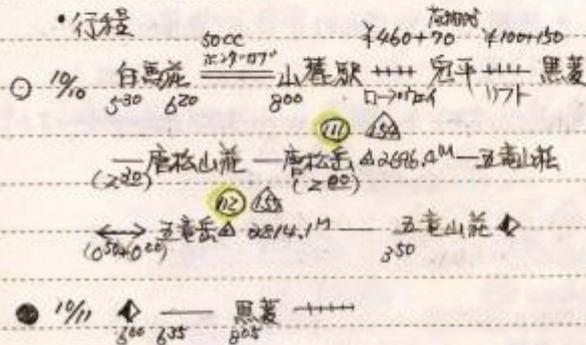
- 1971年(昭和46年) 8/22 日帰り
- 北Pn702 鹿島槍 単独行
- 尾沼居の石ノノリ大谷ノ原 - 冷地小屋 - 鹿島槍 Δ2899.7M

峯

ツツ、フキ 山腹をめぐるおもしろい道。山の彎曲したところ、山のけわしいさま、山のおくみかいさま。特立するさま。おこるさま。

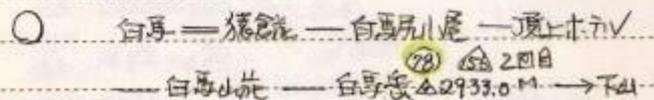
No 36 (日本百名山 No 46)

- 1971年(昭和46年) 10/10 ~ 11
- 北Pn702 唐松, 五竜 単独行 入社1年目
- 地図 白馬岳(高山4), 大町(高山1)
- 行程



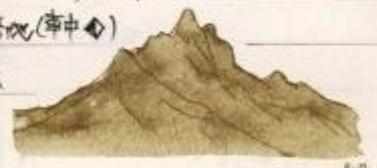
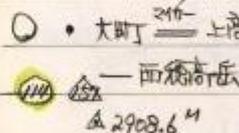
No 37. (日本百名山 No 45)

- 1973年(昭和48年) 8/11
- 北Pn702 白馬雪渓 入社3年目(大町在住)
- 美差子, 跡榮男 結婚12年
- 地図 白馬岳(高山4), 写真 家族 No 1 Pn100
- 行程



No 38.

- 1973年(昭和48年) 8/10
- 北Pn702 西穂高岳
- 下家, 下家良の友人, 鈴木
- 大町 上高地(車中)



シェレックホルン(スイス) 4178m









道標なのか。電柱のような木が立っている。  
その柱は、背後の太陽の陽をあびているが、  
奥に美しい色とはなっている。さくさく削られ  
たのか面白い凹凸だ。表示は消えている。  
象牙色に見える。石のような柱。

既に太陽は昇り赤茶けた富士山。まだ遠い。  
けれども振り返ると結構登ったのだ。  
太郎坊は遠く遠くに見える。

私の後を追いかけてくる。元気な人だ。  
みみり近づいてくる。あつという声で道い  
つづけた。何だ！外人ではないか。話し  
掛けをみた。彼も答えてくれた。"Very  
Jaff Man!"と云ったから、うよく話を  
すると、相手は、日本語を片言話せるではないか、  
"お互いに頑張ろう"というふうな意味のこと。  
日本語と英語のチャンポンで喋りながら別れた。

急登。苦し。シヤツの急登。足の砂利道  
で滑る。前へ進まず。丁度冬山道の初セル  
に近う。シャツの重さの肩に食い込ませる。  
喉が乾く。乾燥しているから、水を含んでも  
直ぐにカウカウになる。喉が痛い。ツバが  
出る。こんなに苦しく喉が乾いたのは。  
槍ヶ岳登山以来だ。

我々二人だ。もう戻りた。何故登るのだ。  
二人にづらおもいとして登るのだ。

お前は馬鹿だ。

この暑い炎天下でこの暑い思いをするのだ。

お前は馬鹿だ。

もうやめな。

こらえて来た。諦めるのだ。けれども長く考えて  
みよ。心臓麻痺になりそうでも何ともしよ  
前に進もう。自分の元気を。夕方。

心臓の強さ。神様に感謝しよう。47歳に  
なつてこつや、二人で急登を頑張っている。

自分の健康に感謝しよう。生きているのだ。  
幸せなのだ。自分で自分を苦しめているのだ。  
それと認識して登っているのか、  
と云う。苦しみのある人。健康と幸せなのだ。

このように自分を慰め勇気をつけて前へ上へ  
進んだ。尾を上らず。情をいふのだ。二人  
は歩いている。でも47歳。もう50歳に近う。  
こんなものだ。

昼食もとり。喘息がから登りつづ。ふや  
か目の山小屋に辿りつく。50米登るの  
何故こんなに時が経たぬのだらう。

水も既に御殿場駅を降りてから。3リットル使  
残りも僅かだ。水を300円を買った。  
冷たい。美味しい。今迄19kgもの重さの  
を背負ってきたのだらう。考えてみれば、  
皮製の重い登山靴、アタリシャツは今迄

お逢いの人々の中に、ついに見掛けたらそれは  
ふむ。つづつ最悪状態を想定して、いろ  
んな山道具をつめて。シャツの中を重くしてしま  
うのだ。荷物と預けよう。小屋の主人も  
快く置いてくれた。

ここの荷物は。満タンの水と。カウとレン  
だけだ。しかし相変わらず登りはきつう。  
考えてみれば、今迄の山行では。上りもあるが、  
途中の平坦な道、又は下りも度々あった。  
この富士山は。上りばかりの上りだ。  
だからしんどいのだ。

下ってくる人達は、他の山と違って"こころが  
頑張り下す"と必ず声を掛けつけてくれる。  
自分達もこの苦しみと味あう。克服してきたら  
であらう。山頂近くになると。最後の喘ぎ。  
苦し。急ぐ木は我々。何の為に今こつや  
登っているのだらうと自問して来た。

そうか。娘の受験が苦痛している。  
 確か山頂には、浅間神社がある。  
 そうだ!! 合格祈願のお札をもらおう。  
 こう考えていたら、自然と涙がこぼれて  
 しまった。破裂しそうな心臓がまた  
 別のところを急ぐ鼓動(始)した。  
 人間には、二つの心臓があるのか。

やと山頂に着いた。3776米。  
 やった! ありがとう!

思えばお札の気持が湧いてきた。  
 元々あることの幸やを改め噛みしめた。  
 浅間神社で学業のお祈りを二人分買った。  
 山頂から柏市の家族へ電話をかけた。  
 既に14時を過ぎていた。上の娘が、  
 富士山頂から電話がかかってくることを知って  
 驚いた。

(92.9.12再録)

いよいよ下りだ。たか" > 走って下った。  
 1時間半で麓の太郎坊へ駆け降りた。

富士山は偉大だ!  
 やはり、日本一の山だ!  
 立派だ!

日本百名山 (正式登山) \*印 抜萃文有

No		No	
1) 10	岩木山 *	17) 56	常念岳
2) 11	八甲田山 *	18) 57	笠ヶ岳
3) 19	飯豊山 *	19) 63	蓼科山
4) 24	那須岳 *	20) 64	八ヶ岳 *
5) 25	魚沼駒岳	21) 67	甲斐駒岳
6) 28	燧岳	22) 68	金峰山
7) 29	至仏山	23) 69	瑞牆山
8) 33	妙高山	24) 70	大菩薩岳 *
9) 37	奥白根山	25) 71	丹沢山
10) 43	浅間山	26) 72	富士山 * <sup>1992</sup> / <sub>1993</sub>
11) 44	筑波山 * <sup>1994</sup>	27) 73	无城山
12) 45	白馬岳 *	28) 79	鳳凰山 *
13) 46	五竜岳	29) 80	北岳 *
14) 47	鹿島槍岳 *	30) 81	間ノ岳
15) 54	槍ヶ岳 *	31) 82	磐梯山 1992
16) 55	穂高岳 *	32) 21	安達太良山 1994

(途中迄、スキー、観光)

No		No	
33) 77	甲斐駒岳 1995	17) 18	蔵王山
34) 78	仙丈岳 1995	2) 21	安達太良山 <sup>94登山</sup>
35) 35	高尾山 1995	3) 22	磐梯山 <sup>92.11.7登山</sup>
36) 66	雲取山 1995	4) 30	谷川岳
37) 65	両神山 1996	5) 49	立山
38) 74	木曾駒ヶ岳 1996	6) 59	栗駒岳
39) 83	悪沢岳 1996	7) 61	美ヶ原
40) 84	未石岳 1996	8) 62	霧ヶ峰
41) 32	南場山 1996	9) 41	草津白根山
42) 60	御嶽山 1999	10)	
43) 52	黒岳 1997	11)	
44) 53	鷲ヶ岳 <sup>5</sup> 1997	12)	
45) 20	吾妻山 1997	13)	
46) 23	会津駒ヶ岳 1997	14)	
47) 14	早池峰 1998	15)	
48) 17	朝日岳 1998	16)	



1982.10.3~4, K

深田久弥著 日本百名山の中

小生が登山し、感動した山々を抜き出し、かつその名文の抜萃を転記した。

改めて深田の文章を読み直し、転記すると、感受性は多少より、文学的素養、歴史にも造詣が深いゆえに感心するばかりである。このような名文を少しも替けたらなあと、思う次第である。

この山日記のページ数は100頁であり、日本百名山について書くとはい何か因縁ありや。

これに関連して『百名山100』川口邦雄著 (講談社現代新書 739) という小書がある。それより、鹿島槍について右頁に示す。

鹿島槍十岳

“ふい山はふい彫刻のよう、そのまわりを一周すると石言を吐く人かいたが、この言葉こそ鹿島槍の心で、そのまわりをたどる。それはほとけのついで、そのふい山である。二つ、ゴボッとたぐり、盛り上がり、ふい山にはまともな山、といて富士山形のような山は何とも単純だ。

ところがこの山は、とゆつみても、さし地がまともな感じがある。山体のまわり、線は、水気味、よい緊張感があり、また誰の目にも、ハンスの正午線がヒョリときまるとみえる。たぐり、角度を変えて眺めると、この尾根が、みえなくなると、次の山、沢がみえはじめ、ついで山の形が相対的に変わっていく。といて、巨大なモリスとのかんていく、ふい山、まともな山、といてくれるのである。

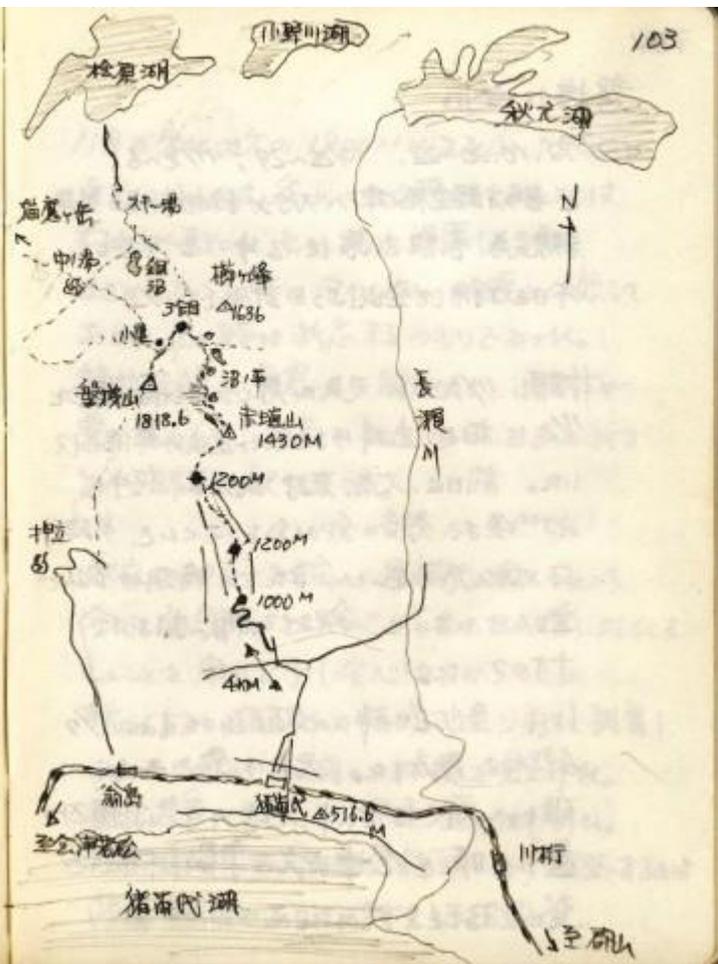
この文章の表現能力及び句読点のつけ方などを、深田の文章と比較すると、雲泥の差を感じざるを得ないと思うのは、私にゆづりか? (注) -15, -16 10-21 参照のこと。 192.10.10 記

No45

(日本百名山 No22) 磐梯山 (107) 1600m 172 ヒコフ

- 1992年(平成4年) 11/7(土)
- 磐梯山 単独行
- 地図 磐梯山
- 行程

白根  
 喜多方市 しろがね産 6:30 起床(定期出張中)  
 喜多方 7:26 → 会津若松 7:55 8:30 → 猪苗代 8:59  
 猪苗代駅 27分 (1150M) → ロッソ前(登山口) 9:10 Δ700M  
 1) 外上部 10:00~10:05 Δ1000M 赤壇スキーコースA 迷わずみ (12:29 12:35分)  
 赤壇山 巻水ヒコ3 (表示1台目) 11:10~11:15 Δ1200M  
 11:30 沼平通過 3合目天狗岩 M 12:09 12:20 (登) Δ480  
 12:36 3合目清水小屋通過 磐梯山 (上) 3合目 13:12 13:15 Δ1399.5 M  
 猪苗代駅 14:55 (下) 14:55 → 猪苗代駅 16:05 16:05 → 郡山 → 上野 19:10 自宅着



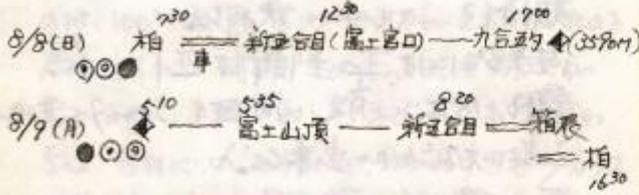




No46.

173 ヒロ

- 1993年(平成5年) 8/8~9
- 富士山 2度目の登山 娘 18.15同行



去年の富士山登山は、実高3000M登り。苦行の御殿場ルートであったが、

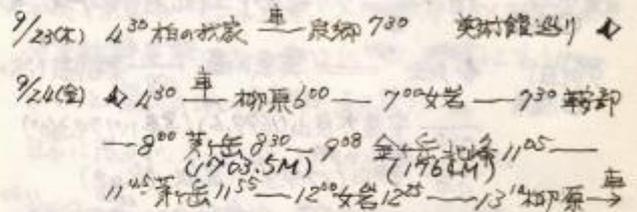
今回 2度目は、実高1200M登りの最短コース(富士宮口)を娘2人と登った。

天気は、残念下り。霧、霧雨と去年の好天とは、逆であったが、趣の異なる登山で娘2人は良い思い出となったであろう。

No47

174 ヒロ

- 1993年(平成5年) 9/23~24
- 日本百名山の著者 深田久弥氏 最後の山 茅ヶ岳、金岳 登山 上原君と2人登山

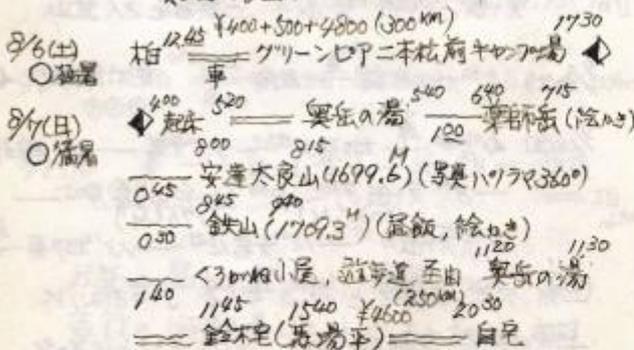


上原、天竺、三浦と私の4人で5年振りに。上原の別荘 泉邸にバスにクルマを預けることになり。折角11ヶ岳へ行くなり 権現に登ると、針風をきてた。あんな雨も 9/23 一日中降りて中絶せざるを得ず。上原から茅ヶ岳、金岳へ日帰り登山という提案にのり。深田氏の登山中息をきりながら最後に登った山を登ることにした。結局途中で誰一人会わない静かな山であった。山頂で2人で休憩し持参した水彩絵具とデッサンをした。1700米の山であったが眺望は素晴らしい。

No48

(日箱山 No21) 108 ヒロ (1600Mup) 175~176 ヒロ

- 1994年(平成6年) 8月6日~7日
- 安達太良山~鉄山 単独行



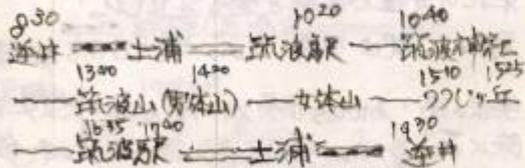
去年の冷夏とは雲泥の差 今夏の猛暑は世間。8月の梅雨も長く、7月からの長夏日が続く。各地で40℃近くになり、高崎市は水不足が深刻。北海道も8月上旬の35前後と、観測史上初の温度。平成不景気も、ビール業界、スナック業界、アイスcream業界 清涼飲料業界などを中心に1℃upするとうけかいくつと景気aui話のりあっている。日本に限らず、ヨーロッパ、アメリカも暑いらしい。涼風を求め、今夏は、3度目富士山連続登山をやる。東北の安達太良山を登ることにした。天気心配は勿論ない。晴天であるに違いない。奥岳の湯・あじの高原スナックと540に29+1100の険しい山。薬師岳を誰一人会わず、鐘と木の熊に会うのはとて不安であった。2人で歩くと安達太良山頂につく。やはり縦線の涼風と景色は、スナックの涼とは別格である。薬師岳と鉄山の2つを登った。(水彩画) 帰路は硫黄の臭いの沢をくぐり、途中高場平の穴倉に立ち寄り、美味いビールをいただいた。194.8.8記。

この山日記をみせてくれた人々の記録

116

- '92.9.11 向山園智 市東市一杯飲み屋(飯田山麓宮大衆)
- '92.9.14 高橋保 徳武夜須賀線の中で
- '92.10.18 ワケル河期の仲間 横浜中華街 均昌園で (上野大塚, 目黒, 大塚, 三浦地)

No49 1994.10.23(日)  
筑波山 (3回目) 1977ヒョウ



久しぶりの秋晴れ。3回目の登山。  
極力歩くことにした。1回目はまだ  
関東鉄道に乗ったが今回はバスに寄る。  
実質4hr30歩いた。絵も画いた。  
丁度現存。今が49歳。49回目の  
山行であった。心地よ痛覚。2200記。

登山のために

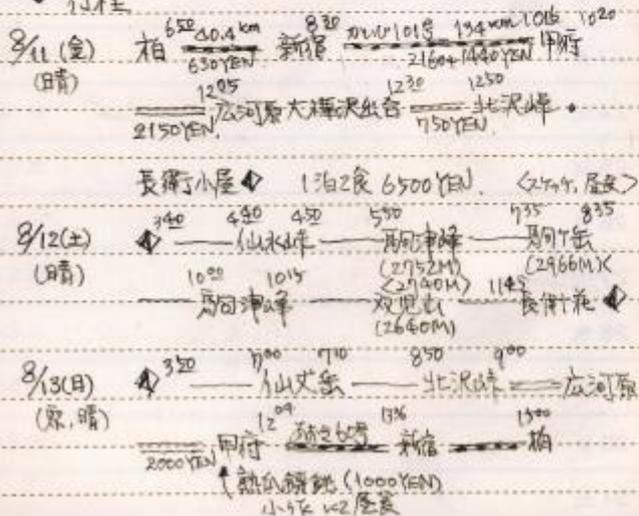


ピツ・バディーレ (イタリア・スイス) 3308m

No50 (50歳記念登山)

- 1995年(平成7年)8月11(金)~13(日)
- 南アルプス 甲斐駒ヶ岳, 仙丈岳
- 単独行, 写真 27枚 101コマ & 1コマ
- 日本百名山 No.97 & No.98 42番目 43番目  
山日記ヒョウ 113+6=119 ヒョウ  
登山ヒョウ 197+6=183 ヒョウ

行程



北アルプスの登山歴に較べると、私の南アルプスの登山は  
極端に少ない。鳳凰三山と、白峰三山の2回(か  
ない。そのうちの1回は20歳代であり、以降無し。

今年私も50歳になってしまい、白山に登るつか  
迷っている時、急に南アルプスに登りたくなった。

当初計画していた夜行列車の行程と朝一番の  
特急列車に、変更した。実は、当初計画にと  
初日の午後3時半頃 山小屋(6合目小屋)に  
つく強行軍が予想され、無理をしないようにした。

天気は、7月23日から連日真夏日の連続  
あり、山行も、最終日霧模様以外、恵まれ  
た。

山登りというのは、さわめて野蛮な、間の抜けたスゴ  
ークなもので、これをスマートにやろうとするととたかく  
間違いが起るのである。 — 松方三郎

自然環境破壊が心配されて作られた  
スパ-林道と、村営リムジnbバスに揺られて  
2030M 標高の北沢峠に到着した。

山小屋は、予約不要という頭があったが、  
現在は、通用しないようで、シーズン中や  
人気ある山では、簡単に2食付にはあり  
つけないのである。

北沢峠長衛小屋の親爺さんにたのみこみ  
何とか、1泊2食プラス翌日の昼食分を確保  
して、眠りについた。

翌朝 誰よりも早く3時に起床(3時40分)  
出発、ハコダテのあたりを2時は仙水峠の  
向かい。途中の仙水小屋に泊る人は、  
後で仙水峠にたどり着く当日、1泊は3人寝させ  
られ、程混んでいて、3時半に皆去った。

そうである。

早朝の元気をフルに利用して、急登をこなし、  
漸やく御来光と対峙する仙水峠に着いた。  
遠くに、黒い地蔵岳のオベリスクが眺め、  
多少の雲海が、太陽の素晴らしさを、没入して  
いるのを感じる。登ってきた方を振り返れば、  
月が浮かび、明日登る仙丈岳がそびえている。

再び樹林帯の急登を、息苦しく、あざとがり、  
耐え、ハイマツ帯にたどりつく。摩利支天の白さが  
眼に焼きつく。また登山道のハイマツの間に、  
シロツグの白い花が、若さをやわらけように  
咲いている。駒津峰に登りついた後、  
甲斐駒の巨大な胸にとりつき、花崗岩の  
白砂を踏みぬき、駒ヶ岳への最後の  
急登にとり

はくちの山から持ち帰るものは、その場限りで消えてゆく印象ではなく、生涯にわたって色あせぬ思い出である。 — オドリ・レイ

深田久弥は、日本百名山の中を、さらに日本の  
十名山と選べといわれ、この甲斐駒ヶ岳を  
落さぬと誓っている。  
花崗岩の白砂を敷きつめた頂上の美しさを  
推している。碓氷の鳳凰山の登山道の  
白さを想い出し、富岳の黒さを逆にお  
お返ししてしまった。

甲斐駒ヶ岳と讃えられた古の漢詩、僧海雲の  
「駒ヶ岳ヲ望ム」を掲げる。

甲峽=連綿ト丘壑重ナル  
雲間独り秀テ鉄驪ノ峰  
五月雪消エテ絶頂ヲ窺ハバ  
青天ニ削出ス碧芙蓉

山頂にて、仙丈岳、遠くは中央アルプスの峰々を  
眺めて、スケッチブックに水彩画を描いた。

駒ヶ岳から駒津峰へ直降下の岩場を  
降り、緊張しながら下った。結構きついのである。  
お、突に多くの中年の女性方のグループが登山  
道とゆるやかに合流した。最近では、高山植物を  
採るのツアーと相おそうであり、私も驚いて  
はいた。

お昼頃、2日の宿の長衛兼に着いた。  
長谷村の村営山小屋に到着。前日予約した、  
馬の背ヒツジの乗泊を解約して、この小屋に  
泊ることにした。手伝いに来ている若者とかなり  
話した。おもしろい。

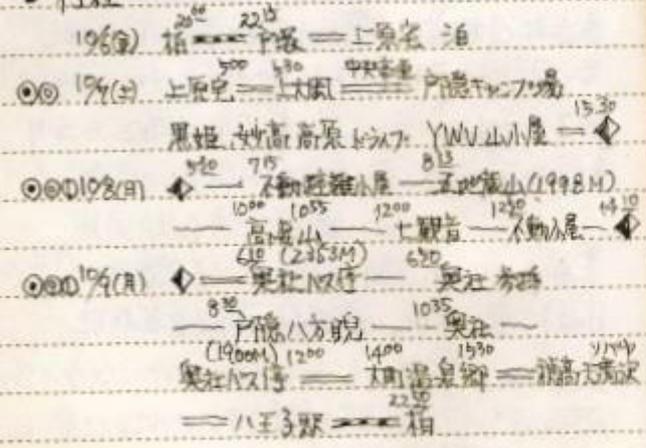
翌日は、やはり3時に起き、仙丈岳を、空身で  
ヒツジに登った。数多くの高山植物と  
出逢った。雷急にもめぐりあはれ、カマツの石山  
が既になし、私の脳に焼き付けた。

ただ道むのびた一人が活弁すれば、他の一人がそれには代るのだ。 — ヘルマン・ブール

No.51

- 1995年(平成7年)10月6日(金)~9日(月)
- 戸惑高原 高妻山(戸隠山 No.35), 戸隠八方眺
- ワケノ仲間(三浦正, 日渡上原と4人で登山)
- 日本百名山 No.35 累計 43番目
- 山日記レ-7. 119 + 3 = 122
- 登山レ-7. 183 + 3 = 186

行程



○費用 { カツラノ池, 高妻料金, 食費, テント場代 ... 12,000  
 7/24 箱根 7/25 上原 7/26 戸隠  
 昼食 850, 夕食 1350, 電車賃 2300  
 箱根から大野温泉まで(バス)  
 大野 1350, 530, 600, 500 合計 19500 YEN

50歳の中年になって 登山を楽しむようになってきた。特に今年は、半世紀という区切りなため、結果的には、今回の山行で100回登山。

最近単独行(高)が続いていて、今回は昔のワケノ同期の仲間が集い、07 テント生活と久しぶりに楽しむ。三浦正は都合で不参加になったが、上原の4WDでキャンプ場へ乗り込み、バスキャンプ方式としての山行になった。

高妻山は 日本百名山の一つである一方、戸隠山は、どうもない。高妻山は、結構に盛られている。日本百名山にないのは、静かであるのも知れない。  
山の高みでは、ほくちらは何よりもまず、高みです。とてやま。 —ワケノ・ボナチー

高妻山は、上原君のコースの一つとして、このころと相乗を受け、はじめの山の名前を知り、というレベルである自分が、なまじり。勿論、戸隠という名前は充分知っており、大野温泉、美峯子と飯縄高原、野尻湖等のハイキングに来ている。高妻山は、深田久弥が「あまりその名が知られていないのは、平野から遠く眼につく山に近く、こゝそは入近から、遠く離れなれば容易に見えないものである」と書いている通り、目立たない。名前の由来は何だろうか。

八方眺みから遠望する高妻山は、とっしりとして、何の風格も備わっている感じがある。ついでに、スケッチしてはみたが、山の姿のバランスもとても美しい。とらねとつくと、女性的な感じであり、そのころの名前のつづきのところかと、勝手に考へてしよう。一方、戸隠山は、エッセイの岩壁で構成され、男性的な印象を受ける。

戸隠の岩壁は、久しぶりに緊張感がある。既に山も50歳になり、バランス感覚も、あやしくなる年令に、さ(わ)り、あり、緊張感も、続くとも、心臓に負担も、かぶり、そうである。魚沼三山の比ではない。若い女性も、最近、滑落したから、岩壁に、たて、かけられた、真新しい、ビッケル、胸の締めつける。

戸隠神社の奥社に、無事下山すると、参拝客が、大勢押し、ついて、早朝の誰一人居ない、参拝客とは、まるで異なる。太陽の照らす、明るいと、人々の雑踏と、早朝の静寂と、とか、時間と、へって、同じ神社とは、考へにく。

(追記) スケッチと前述した、来年の年賀状の版画の題材として用いることとした。結局、6版の多重刷となり、手にとって、初めての大作であった。しかし、出来は、いかに、なまじりか？

何かが、指すに、類に、かぶる、言葉から、とり出す。1度、いい曲を、ききたいと思つて、レコードを、かける、ようなら、のかもしれない。 —望月達夫



深田久弥の日本百名山の「両神山」には  
次のような文章から始まっている。

上野から高山崎まで汽車の窓から多くの山を  
見ることが出来る。……私はいつとも気がついて見る  
山に、両神山がある。その山は秩父の前山のうしろに  
岩稜を岩の若の若のさまで立っている。  
両神山は異風である。その山はギザギザした  
頂後の一線を引いているが、左右はフラットに  
いる。

山の名の由来についても触れており、八日見山が  
竜神リウカミに、更に両神リウカミとなったと。  
そのユウカミは、ヤマガミから来たものの、オカミは  
大蛇オウラの意で、仏教の竜王である。  
「竜頭大明神を祭神とする」とこの山の古縁起に  
記されている。

確かに日向大谷から歩きはじめると、随所に  
碑や石像が目にとまる。……竜子という名は

何と云うかと考へながら歩いた。  
荷物もテントも持っていないので6kgと軽く、大して苦勞せず  
清滝小屋へ着いた。この小屋は、最近増設されたもの  
赤い屋根のログハウスで目につく。  
小屋の中は、ランパでの生活であるが、何となく風情が  
ふんふんに感じるのは何故だろう。  
人が多過ぎる為なのか。今日はジュンテウの  
最中で、200人近くは宿泊するそうよ。

今年は、4/27(土)~30(火)、5/2(水)~6(月)と休みが  
続き、今春は寒さが4月中旬まで残り、我が家でも4月に  
入ってもストーブを使っていたが、中旬を過ぎると急に暖かくなり、  
4/24には全国的に夏あじき騒ぎになり、28~30℃と上昇。  
ジュンテウ前半は暖かく、お天気に天気も晴れ  
仕事関係で4/30(火)は出勤し、5/1(水)は朝3:00に起床し、  
5/1の午後は全国的に雨となり、5/3~4はとうとう天気  
が、お天気の予報もお天気に、山登りを中止するに  
して次である。結果的には、まあまあのお天気に  
恵まれ、5/5(日)は、どしゃぶりの雨になった。

その春に来るのが例年より遅い為なのか、  
本来ヤシロツツシが咲いている時期なのに  
未だ咲いていないのか。足元には、ニリンソウが  
可憐な白い花を咲かせて、楽しんでくみた。  
初日の夜は、偶然、清滝小屋に、音楽のグループ  
がパーティを組んでおり、お天気に、お天気に、楽しんで  
方を味わって来た。時好大学の主体を  
応援として、専修大の男子学生が混じり、7人7人  
同好会が、ダンスの音楽を奏でてくれた。日本の  
雑音とか、かなり共通性のあることを認識して  
くれた。外気温は、12℃前後とあったが、小枝の  
先端に、小瓶、ちり紙、灯油での篝火に、囲まれ  
50~60人が、ハッピーに、手拍子も、お天気に、  
楽しんでくれた。

小屋の中では、1階と2階を、合わせて、200人前後  
が寝るそうよ。雑魚寝を、男女別の子供を、お天気に  
20時頃就寝し、23時、1時、3時、4時と途中  
何度も目をさし、腰は痛い。今後は、テント生活

の方向に、お天気に、お天気に、お天気に、お天気に、  
翌日の本番の両神山登山は、空気に、お天気に、お天気に、  
あって、お天気に、お天気に、お天気に、お天気に、  
下りた。山行中、ホトギスの鳥の鳴き声、何となく  
耳に、お天気に、お天気に、お天気に、お天気に、  
また、小動物も、お天気に、お天気に、お天気に、お天気に、  
期待して、お天気に、お天気に、お天気に、お天気に、  
会うも、残念下り、お天気に、お天気に、お天気に、お天気に、  
山頂に着くと、お天気に、お天気に、お天気に、お天気に、  
なるが、途中では、お天気に、お天気に、お天気に、お天気に、

快晴には、お天気に、お天気に、お天気に、お天気に、  
ハル岳方面に向って、お天気に、お天気に、お天気に、お天気に、  
茶色は、お天気に、お天気に、お天気に、お天気に、  
かなり、お天気に、お天気に、お天気に、お天気に、  
あるようだ。富士山は、お天気に、お天気に、お天気に、お天気に、  
やけに、お天気に、お天気に、お天気に、お天気に、  
お天気に、お天気に、お天気に、お天気に、  
お天気に、お天気に、お天気に、お天気に、

山男の沈黙は、謙遜さよりもむしろ素直な心からくるものだ。  
— モンセル

No.54

- 1996年(平成8年) 7月5日(金)~7月(日)
- 木曾駒ヶ岳 (日本百名山 No.74) 2956米
- SDK 千葉700, 塩尻700 39人参加 13人下山
- 日本百名山 46<sup>冊</sup>, 山日記10-7/126, 登山7/191

行程

7/5(金) 工場 = 塩尻工場  $\leftarrow$  21<sup>時</sup> 酒の中  
 7/6(土) 朝 月着の天鼓 (床屋の天鼓の音は想い出) 22<sup>時</sup>  
 7<sup>15</sup> 8<sup>30</sup> 8<sup>45</sup> 9<sup>20</sup> 9<sup>00</sup> 10<sup>20</sup> 10<sup>30</sup>  
 塩尻工場 - スキ場 - 林道の堰 - カ水  
 11<sup>25</sup> 11<sup>35</sup> 12<sup>15</sup> 昼休 13<sup>05</sup> 13<sup>50</sup> 14<sup>10</sup>  
 - 6合目 - 7合目(御前小屋) - 8合目  
 徒歩登山 見晴小屋  
 14<sup>30</sup> 14<sup>35</sup> (15<sup>05</sup>) 15<sup>20</sup> 16<sup>00</sup> 16<sup>25</sup>  
 - 休 - 玉ノ滝小屋 - 駒ヶ岳  
 16<sup>40</sup> (カミナリ7, コスツ916 5<sup>30</sup>  
 22<sup>時</sup> 実施 " " 6<sup>20</sup>)  
 - 玉ノ滝小屋 (18℃)  
 7/7(日) 8<sup>05</sup> 11<sup>15</sup> (13<sup>10</sup>)  
 玉ノ滝小屋 - スキ場

往復 山小屋110円  
 COST (24000/3人 = 8000) + 6500 = 14500  
 1100/1500, 2000 Total 18000円

久しぶりに単独行の世界から多人の世界へ  
 突入した山旅行と云った  
 酒の1=500の強い山行である。  
 下山は知り、山行の1=2であらう。  
 111ではやっぱ!!  
 7.5までは俗世界延長もあつた。  
 でも 考えてみた。  
 雪海の上での美しい演技。  
 美目青うい色彩の世界。  
 多言語はいうふう。  
 玉ノ滝小屋 番人 松沢さん 良人!!  
 じゆう人向も若さうな2人は?

安全ピンで釣でもつれるイワナといえど、これはた  
 いぶんバカなイワナだ。あるいは樺太にいたイワナ  
 のオシロココマであるかもしれぬ。 一今西路司  
 コイワカカミ 花咲く!!

No.55

- 1996年(平成8年) 8月10日(土)~13(火)
- 荒川三山 & 赤石岳  
 (日本百名山 No.83) (日本百名山  
 悪沢岳 3146M) (赤石岳 3120M)  
 +2km<sup>2</sup> +6km<sup>2</sup> 7月  
 • 日本百名山 47, 48 冊目, 山日記10-7/132 7月  
 登山10-7/198 7月

行程

8/10(土) 柏 = 東京 715 904 953  
 (3H) 12<sup>57</sup> 特急東海19 3190+2760  
 静岡 1木尾又 迂回徒歩 1木尾又上 15<sup>00</sup>  
 静鉄バス 3000 (1.5H) 16<sup>20</sup>  
 橋島ITyシ  $\leftarrow$  6500YEN (1泊2食)  
 東海バス+4Gバス (1200M)  
 8/11(日) 500 1145 835  
 清水平 藤段三角岩  
 950 1035 1140  
 阿久戸池 千枚小屋 3000P  
 1230 1225 1420  
 十枚岳 丸山 悪沢岳  
 (2888M) (3032M) (3141M)  
 1520 1620  
 中岳 前岳 荒川小屋  
 (3083M) (3068M) 6000  
 富士 700(10-12)

8/12(月) 512 705 720 745 840 855  
 赤石岳 赤石岳 八ヶ岳  
 (3081M) (3120M)  
 1020 1115 1145 1220 1525  
 富士見平 赤石小屋 橋島ITyシ  
 (昼飯) (1.5H) 700 6500  
 150(10-12)

8/13(火) 500 930 1010  
 1145 1112 1040 1350 1630 1723  
 1145 1350 1630 1723  
 民家集合 静鉄バス 静岡  
 (11V, 20V) 2900 加越(中) 800  
 212+44V 玉寄司 1000  
 1942 2100  
 東京 柏  
 静鉄バス48  
 途中 大西橋

費用  
 電車賃 12000 YEN.  
 バス 6000  
 山小屋 6500x2 + 6000 = 19000  
 ビール等 700 + 150x2 + 300x2 + 700  
 + 1000 = 3300  
 その他 1000 + 800 + 1000 = 2800  
 43100 YEN

(同行者) 下家正平君 (昭和電工 同期入社)

山に行くには元手がある。その最大のものは体力である。  
 - 松浦明

今回の山行は、学生時代の元気な時でも  
敬遠した南アルプスの南部 奥深い  
荒川三山、赤石である。

然し、交通手段や山小屋の整備で  
中年になった私でも、十分に楽しめるよう  
になったのである。

先の樽船岳登山で同行した同期の  
下谷君も声を掛けられ、是非ともとい  
うので、2人での登山となった。彼は  
ここ3年、中年の心くるいながら、毎週  
登山をしている男である。

さて、登山計画書も私が先作り、  
下谷君は更にワッポ紙に送ってきた。  
登山口で早速届けられたのである。

今回の私の登山目的は  
(1) 新調したカメラで高山植物を写す  
(2) 最近続けている水彩画をかき  
であるが、それらは自分の机の上に  
置いて本人だけが後日楽しむもので  
世の地の多くの人々の眼に映ることは  
ない。ある意味ではおなじみのことである。

高低差 2000米は富士山の3000米に  
次ぐもので、久しぶりに、アルピニズムの  
大きい部類である。  
素性の発達により、登山用具も大部軽く  
なり、出掛ける前に計量したら10kgと  
あった。以前は20kgを超えていた  
あろう。

踏のない高さに向って踏みだしていく登山者の後顧の  
背中には視座のザックがあり、それには健康が詰ま  
っている。

— 辻 —

3泊4日の行程で、登山基地の樫島が  
2泊となってしまった。

当初の登山計画書では、

初日 樫島小屋

2日目 千枚小屋

3日目 赤石小屋

4日目 樫島経由

であったが、予想以上に川原調であった為  
2日目は千枚と赤石の中間に、荒川小屋  
まで足を伸ばし、3日目は余裕を以て  
下山して、出発地の樫島に宿泊  
したのである。何となく水洗面所や  
お風呂が備わっているという事も、深きで  
つつい慰められてはいた。

静岡から樫島(標高1072米)まで

バスで4時間半を以て40分の徒歩を  
要す、奥深いところなのである。

このように長距離は、日本では  
やはり南アルプス南部が、タネツツである。  
よくも前衛の峰々の続く山並み  
感心した。昔の登山者は、重荷を  
背負って、大井川の源流を長い時間  
を掛けて歩きつづけたのであろう。  
想像を絶するものである。

私達は事前に“山と溪谷”96.8月号の  
特集“中高年登山者のための夏山企画山行”を  
読んでお互いに良く読み、理解し、実際に  
応用した。結果的には、元気に登り、元気に  
下山できたのは素晴らしいことか?  
下谷君も文句なく喜んでくれたのは  
ないだろうか。

山並みと知れぬ西部ヒマラヤの全域が見られたので、わ  
たしは目の前で地球が回転するのを見るような気がし  
た。

— T. ロングスタッフ —

初日は12時間、2日目は10時間半歩き  
休む暇が、極端にはバテなかつたのは  
よいだろう。

- (1) 不完全燃焼(酸素不足による疲労)
- (2) カスタ(エネルギー不足による疲労)
- (3) ナーヒト(水分不足による疲労)
- (4) エンゾウ損傷(筋肉の細胞が壊れて...)

以上の4分類の内容と実感をもって  
理解し、対応した結果であろう。  
従って日頃の体力作り(走る維持)と  
荷物の軽量化は大いに役立つだろう。

台風12号の暴走の上下山後九州、山日  
能登東北と縦断したものであるが、  
その影響というは、前振りで、普通なら  
午前11時頃よりガスが上り始めるのに  
対し、今回は9時頃と早かった。

その為、2日目の荒川小屋〜赤石岳の間は、  
素晴らしい眺めに恵まれたが、下山以降は  
ガスで眺めは今一つであった。

目的の高山植物写真撮影は接写45cm  
のカメラであったが、結果を見ると今一つ  
満足できぬものであった。

たゞ今回、雷鳥の親子に2度遭遇し  
シャッターチャンスに恵まれたのは収穫で  
ある。もっとズームアップできればよいのだが、

もう一つの目的、水彩画であるが、どうも  
才能が乏しいのは事実と疑いなくなって  
きている。固くして頂上で描いたのは、  
作品の気に入らぬというは、満足できぬ。  
はたかとも。

なんと、世の中には書籍から学んで、自然から学ばさ  
る人の多いことか。 — 小島鳥水

No.56

- 1996年(平成8年) 10月10日(木)〜12日(土)
- 鳥甲山(2037.5M) & 苗場山(2145M) 49番目
- 秋の秋山郷 高田宏「木に会う」を紹介
- Xバー 上原、三浦現、日渡、鈴木

山日記ページ 109番目  
登山ページ 200番目

行程

10/10 横浜から上原、三浦、日渡。5:30〜11:30  
柏(鈴木) 6:30 <肉越道> 秋山郷  
上野原温泉のよきの里 大十郎、沼田

10/11 晴 10°C  
車 登山口 6:30 8:40 赤富肩 10:05 鳥甲山 11:05  
— 13:20 登山口 —

10/12 風強(夜中) 日渡  
車 3合目(1290M) 6:35 — 5合目(1580M) 7:30  
— 7合目(1810M) 8:10 — 2000M 8:45  
— 苗場山(2145M) 9:15 10:15 3合目 12:10  
13:30 雑居IC 18:05 柏 19:30 浪 22:30

No.57

- 1997年(平成9年) 5月1日(木)〜2日(金) 51次
- 御蔵山(3036M) (昨前山 No.60 50番目)
- 残雪多い春山 単独登山(17hr) 休養

山日記ページ 140番目  
登山ページ 201番目

行程

5/1 〇 柏の自宅 7:30 新宿 10:00 上野原 12:00 12:10 12:15 12:20  
14:11 本曾福島 15:00 15:10 15:20  
15:20 16:00 97:1 17:20 19:50  
田原 榎林帯通過 7日  
◆ 夕飯、夕飯、沖湯、星空眺め、靴、靴ひき、靴  
F外 2°C, F内 -2°C

5/2 〇 4:00 起床 6:00 発 2:50 王滝陣地 榎林帯  
8:30 8:50 9:50 10:00 10:20 11:20  
御蔵山頂 8合目 2000M直 田原  
11:30 11:40 11:50 12:00 12:20 12:30  
王滝スキー場 王滝スキー場 王滝村  
13:40 14:33 15:04 15:28 18:04  
本曾福島 榎林帯 新宿  
19:15 842665  
柏の自宅

山登には無理はなか  
平直な、そして恐ろし  
惧してくれだ。  
JR 7000往 + 1,980復 = ¥15,220  
(972 - 2830(往) + 171,060(復))  
J-F5(往復) 1,080 = ¥11,990  
1000 + 1100 + 1000 + 500茶 650  
+ 1000 240 = ¥2,730  
油断(食平etc) 平直文書 ¥3000  
合計 ¥32,940

- 4/27(日)~5/6(火)の10日間 リフレッシュ休暇の履行により、今回ゴールデン飛石連休の合間のWEEK DAYの5/1(木)~5/2(金) 快晴であつた。
- 電車は指定席をとらぶ。ゆとりと旅が出来た。たけ シーズンでないのに震るバスの運行がたいやが 玉に傷。
- ①のタクシー運転手による王滝村、木曾の話し  
②の貸スキー店主の厚意による王滝村まで12km位乗せてくれた際のいろいろな話し  
ゴキウが片道券であり片道往復乗せられたこと  
色々とスキーというが親切、暖かみを受け  
山行であつた。
- 4本足の簡易アイゼンとストックステップという1~2Mの積雪にはアイスクラウと信好が  
のみ意味は無奈まるといふであつた。

- 偶然 快晴に恵れ -2°C位で滑りだが、  
と。氷雨か降っていらつとつらな長なうら。  
也。150)。ピッケルや ロンテ、スリッパ  
耐氷は登山靴、サングラス、陽焼け防止のクリーム、  
IPマツトが是非とも必要であつた。反省。
- 実は前日に漸く御嶽山に登ると決めた  
あつた。はあ、(う 限り)である。  
本日は残雪も多いうえ、大山でもと見られる  
地帯ともみれば、あつた。諸費は  
高いうえ、もう一つの理由が、  
次に白山を考へたが、雪が深いと懸念  
してあつた。  
昨年7月5日~7日に木曾駒ヶ岳に登り、  
その時ですら、大部 雪渓が残っていた。  
と考へると結構 大胆なことを考へた  
あつた。日本名山50番目の記念登山に免じて  
もういふ。  
あの雪はつかいの帽子のようなマツターホルンに単独  
は実に恐ろしい経験だった。一 植村直己

- 今日 アテックス製のテント(2人用)を初めて  
使った。7合目の地面は凍ったので  
背中、腰が寒。持ちし衣服を全て凍らせ  
た。夜中に何回も起きてしまった。  
IPマツトが 必需品であること痛感。
- 満天の星空、1昨年11月に登った時の  
雲取山の星空も素晴らしかったが、今回は  
更に2倍、3倍の素晴らしさであつた。  
お山の真暗さ、誰も居ないという状況が  
海へと盛り上げられた。  
流星!! 宇宙の神秘さ!!  
昔の羊飼は、色々考へさせられた。  
昔の羊飼は、色々考へさせられた。
- シーズンオフというには、登りは、私も含め  
10人以下であつた。翌日下山時にも9人が  
登ってきた換わりを交わした。  
たけつた。

- 王滝山に登る時は、雪渓、雪中の  
紫外線の強さには、あつた。  
途中、人ともみれぬ、足跡も少なく  
上へ登る。果してどうなるか正通して  
不安であつた。何度か引き返した  
気持からなつた。
- 稜線に出た。今度は強風にあつた  
主系の下着、そしてアテックスの雨具(防風)を  
100%。と、下山に会った頂上の  
川屋の番人によると、大抵風はなつた。  
登山計画書では縦走は 湯河温泉の途中  
予定であつた。足跡も1分しかなく、直ぐに  
諦め、安全な、登り路を戻すことにした。
- 御嶽山山頂の中央の穴、北側の穴の  
遠眺は、ひと言では云えない。素晴らしい  
景色である。冬は楽しい。(味わく)

感じである。涼々とし、おりに人が居なく  
孤独であると共に、風強く、ある種の恐怖  
が共存し、無限と思わぬ透明さ、  
自然の造形、美しさ、素晴らしき  
多くの表現力をも合わせたい。この  
なすけとを露見に（あつた）。

• 折角水彩画の道具一式を持参した  
強風は無理。25枚のフィルムにとどめ  
て、私の脳裡に焼きつけたものが  
恐らく一番素晴らしいものだろう。

• 早く今年7月には52Xに  
約16kgの荷物を背負、20の単独登山  
のついでに結核されるだろう？  
50肩(左)と7を背負ながら直ぐ歩  
張りがいいと、楽しんで。健康に  
感謝して。途中の明神様に祈りをこめて。

• 帰路の車窓から南アルプスの甲斐駒ヶ岳が  
真白、鳳凰三山はまぼろし模様、栗野を過ぎれば  
左側には沢に雪が残る八ヶ岳など。

英文のVTRの世界を、P109~P120  
ARISTOTLEの"THE FORM OF A THING IS  
ITS SPECIFIC CHARACTERISTICS"  
"THE FINAL CAUSE", "LOGIC", "NATURE'S  
SCALE", "ETHICS", "POLITICS", "VIEWS  
ON WOMEN"と読んでみた。

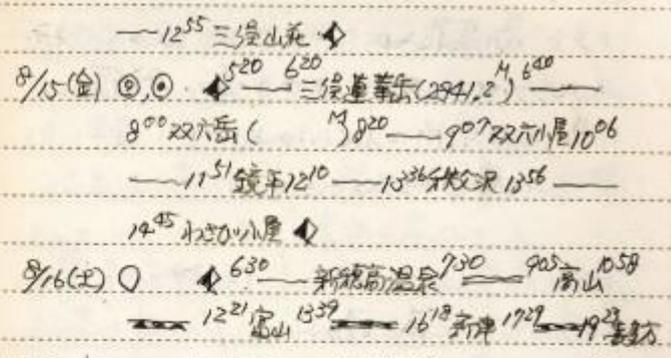
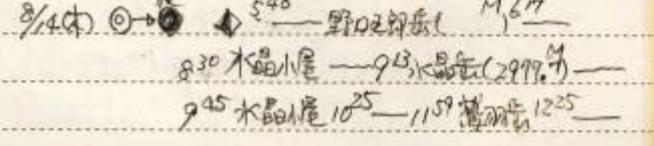
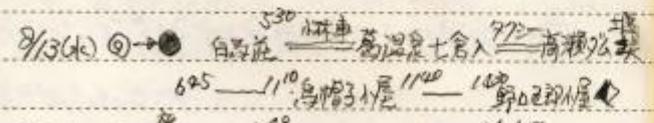
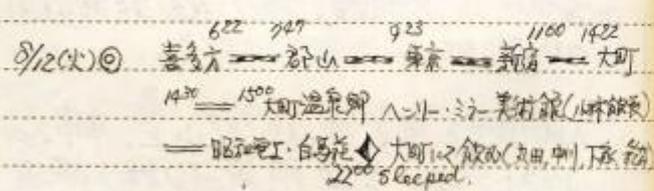
NATUREを響き、楽しんで"登山と、車中での  
アリストテレスの哲学解説物語"を読み  
何という。マッシュアップを組み合わせたのではないだろうか。

1975.3.2000記

ひとふんばりに3時間近くもかけてようやく頂上。三  
角点のやぐらがまだ残っていて、その下に無傷の一等  
三角点の標石が私のくものを持っていた。  
—今西純司

No.58

- 1997年(平成9年) 8月12日(火)~16日(土) 52X
- 北アルプス裏銀座縦走(日本百名山 No.51~52)  
鳥帽岳、野田御岳、水晶岳(黒岳)、鷲羽岳、  
三後連華岳、双六岳、3折岳
- 山日記10-7 147番目  
登山10-7 208番目
- X-11- 下段、鉛筆



以下の文は、この日記の約1年後の1998.7.21(朝)に記している。

久しぶりに縦走をこなすという感がある。昔は大町に居たので身近な場所。このように雪の上のような素晴らしいところに出掛けたらいいのかもしれないと残念なことに思っている。

今登山は現在、大町温泉御にてハニリーミー美術館長とこの小井田さんに非常にの予定について十分な考慮をいつでもおこななければならぬものは病人だろう。

お世話をしている。  
 7月17日 葛温泉入口から小林明子のR.V.で  
 送り出された。途中の道で野獲の  
 足跡を探る場所と出た。おれも徒歩に  
 登る。どうなるかと思つて居た。

初日の急登は私自身にとつて、かなり厳し  
 い。日頃トウエーの功と奉に  
 いると思ふ。  
 野口二郎の屋敷の身軽な体で宿とて、  
 和歌山の高山で、文芸や食事にこれとは  
 予想外だ。

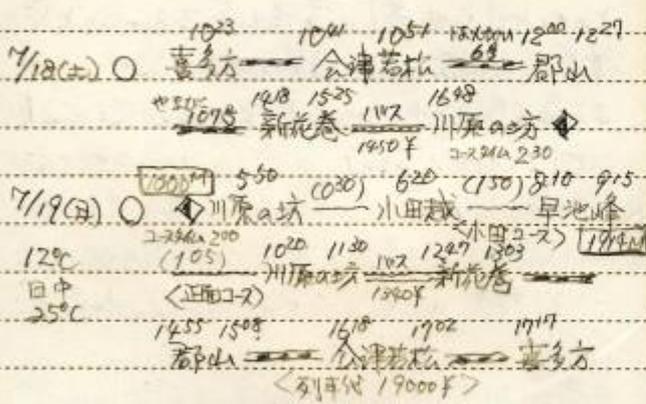
翌日は晴れ。尾根の徒歩は最高に  
 面白。右側は雲の平たぬ山と32の標高に  
 私たちは雲の上の人間気分である。  
 表根屋敷も、野口。表根屋敷には、9人は  
 少年少女の夜長の石はともかく、少年少女の

山頂の山頂。  
 遠望の絶景の景色は、それと美しく雄大である。  
 都立の山頂の景色は想像もして居ない。  
 何と見ても一人一人の山頂に居る。  
 三保の山頂の見事な景色も、夕日と霧(雲)  
 との光景の美しい景色を眺める。  
 下は結構な山頂の景色。  
 山頂の景色は、それと美しく雄大である。  
 山頂の景色は、それと美しく雄大である。

探検の最高の意義は愉快にすぎた本当の自由と、困  
 難な仕事を楽しくやりとげた満足とに帰するものである。  
 —シブトン

No.59

- 1998年(平成10年)7月18日(土)~19(日)
- 北上山地 早池峰(山形県 No.58)  
(山形県 No.148)  
(山形県 No.208)
- ティータイムの登山



本日は雨男の日は、今回は2日間快晴に  
 恵まれた。今年の夏は梅雨明けが未だに  
 北の高地に、強風。南の高地に、弱風。  
 今年の梅雨明けは、横断する。

小池も早池。53分。7月9日に、  
 早池の早池。遠野に近く、柳田の遠野に  
 1.5kmほど、早池峰。早池の早池。  
 天は、早池の早池。

往路の早池。早池の早池。早池の早池。  
 車窓の早池。早池の早池。早池の早池。  
 思ふ。早池の早池。早池の早池。  
 早池の早池。早池の早池。早池の早池。  
 往路の早池。早池の早池。早池の早池。

早池の早池。早池の早池。早池の早池。  
 早池の早池。早池の早池。早池の早池。

早池の早池。早池の早池。早池の早池。  
 早池の早池。早池の早池。早池の早池。  
 早池の早池。早池の早池。早池の早池。  
 山崎(やまか)の 雲の日暮れにともした。ラン  
 プの火屋(はや)の指のあとかな。 —三好達治



異常気象の続く今年 東北地方は 凶作に  
なっても 未だ 梅雨明けが できていない。

前線が 停滞して 毎日 豪雨 雷雨が 続く。  
8/12(水)は 三ツツツの工場 新設工場と  
東武の工場は 共に 床上 浸水で 大被害。

8/13(木)の朝も 激しい 雨。 降る 降る 午後から  
やんで 順延 地味 喜多方の花火大会の 清々しい  
東北の夜空を 照らす 光が いた。

8/14(金)の早朝も お天気に すがすがしい。 400に  
家を出発。 相棒の 下家 雨 晴れ男と  
いうので。 それに 安かおりの 命を 朝日岳  
へ 急ぐ。 前線は 漸く 南下して 300に  
少し 期待 できる ようだ。

朝日岳に 7:2 早速 登り 12:40 林道で

突き 進んで 結局 雨雲に 突き  
つくと する。 約 40分 の 27分!

今回の 登山は 久しぶりに 本格的な  
日ノケの 1200m。 2-27分 以上は  
時間がかかった。

登り 約 8時間 (標高差 1250mほど)  
下り 約 6.5時間 と 長時間 だった。

小豆の 足も 異常に 疲れ した。

登り の 途中で 左足も 筋肉の ケン  
下り では 11-7 マラソンの コーチ 前 の 如く  
お通や 筋肉の コンパシ と きつ。

やはり 53歳の 年齢の 影響か?

大朝日岳に 登山は 子ノケの 雲は 消えて  
360° の 大パノラマ!! 奇跡的 だ!!

アルピニストは 儀式 だった ことは 知られた。  
— エルヴーフ

朝日岳小屋は 定員 50人 (2階建て) で 夏季  
シーズンも 集まり の 対象 である。

今日は 12> 定員 一杯 の 善行 登山 会 だ と思  
う。 丁度 100名 ほど 完登。 登山 者 さん

同宿し 履で 用意 した 記念 の 下山 幕を 壁に  
かけて 仲間 から 祝福 を 受けた。

小屋の 番人 (65歳 ほど) も 祝酒 を 築 いて  
飲ん で 仲間 に入 った。

やはり 周 雰囲気 は 悪く ない かも ね。

北 平 川 と 北 平 川 と は 異な る かも ね。

今夜は 気候も 佳し 村の 気配も 濃い かも ね。

中に 草、11ノウ、村子、鳥甲、深川、スズナ草  
( ) 人参草 etc

秋 森林 帯 には 主 派 系 木 材 林 の 中  
に 多く の 木 材 がある。

山の 本は 年 による に つれて、その 生まれ た 時代 を 物語 り。  
いぶし 銀に 似た 光を 増す。 — 川崎 精雄

日本の山と三百名山

●印は日本山岳会選定の「日本三百名山」

山名	標高	地図名	行政区画	(学術支天)
富士山(朝ヶ峰)	3775.6	富士山	静岡県・山梨	2880 乗鞍岳 斑草・長野
白山	3056.4	富士山	静岡県・山梨	●乗鞍岳 2978.3 赤石岳 静岡 岡
白根山(北岳)	3192.4	市野瀬山	山梨	●黒岳(本岳岳) 2977.7 檜ヶ岳 富山 山
黒越岳	3190	上高地	岐阜・長野	大 伏 岳 2975 市野瀬 長野・山梨
関ヶ岳	3189.3	大阿原	静岡県・山梨	●駒ヶ岳(早雲) 2965.0 市野瀬 長野・山梨
雄略ヶ岳	3180.0	檜ヶ岳	岐阜・長野	摩利支天山 2959.2 御岳山 岐阜 幸
箕川岳	3141	赤石岳	静岡 岡	●駒ヶ岳(水登) 2956.3 赤 穂 長 野
赤石岳	3120.1	赤石岳	静岡・長野	●鷲 羽 岳 2942.2 檜ヶ岳 富山・長野
大 喰 岳	3120	上高地	岐阜・長野	●白 馬 岳 2933.0 白馬岳 富山・長野
北 郷 高 岳	3106	上高地	岐阜・長野	(朝ヶ峰)(宝剣岳) 2931 赤 穂 長 野
瀬 田 岳	3103.1	上高地	岐阜・長野	(木曾駒ヶ岳) 2931 赤 穂 長 野
市 野 瀬 高 岳	3090.2	上高地	長 野	●栗 峰 岳 2926.0 檜ヶ岳 富 山
中 岳	3084	上高地	岐阜・長野	●野 口 五 郎 岳 2924.1 檜ヶ岳 富山・長野
中岳(西阿原内岳)	3084.2	赤石岳	静岡 岡	●大 天 正 岳 2922.1 檜ヶ岳 長 野
御岳山(朝ヶ峰)	3063.4	御岳山	岐阜・長野	(明 神 岳) 2920 上高地 長 野
御岳(北岳)	3060	赤石岳	静岡 岡	(北 俣 岳) 2920 大阿原 静岡 岡
中 白 根 山	3055	大阿原	静岡県・山梨	西 穂 高 岳 2908.6 上高地 岐阜・長野
西 穂 高 岳	3050	大阿原	静岡県・山梨	●檜ヶ岳(白馬岳) 2903.1 白馬岳 富山・長野
坂 見 岳	3046.9	大阿原	静岡県・長野	●八ヶ岳(赤岳) 2899.2 八ヶ岳 長野・山梨
始 末 ヶ 岳	3031.7	市野瀬	長野・山梨	●笠 ヶ 岳 2897.5 上高地 岐 阜
南 岳	3032.7	上高地	岐阜・長野	●広 河 内 岳 2895 大阿原 山梨・静岡
小 笠 原 山(赤岳)	3030	赤石岳	静岡県・長野	●奥 島 嶺 ヶ 岳 2889.7 立 山 富山・長野
乗鞍岳(朝ヶ峰)	3026.3	乗鞍岳	岐阜・長野	●別 山(立山) 2885 立 山 富 山
● 奥 岳	3023.9	大阿原	静岡県・山梨	前 山 2883.4 赤 穂 長 野
●立山(大池山)	3015	立 山 富 山	山	王 杖 岳 2879.8 赤石岳 静岡 岡
●聖岳(前聖岳)	3011	赤石岳	静岡県・山梨	龍 王 岳(立山) 2872 立 山 富 山
富士新立	3000	立 山 富 山	山	● 鷲 母 岳 2867 御岳山 岐阜・長野
三 峰 岳	2999	大阿原	長野・山梨	● 鷲 母 岳 2864.7 大阿原 静岡 岡
● 駒 岳	2998	立 山 富 山	山	● 赤 牛 岳 2864.2 檜ヶ岳 富 山
● 御 山	2992.0	立 山 富 山	山	● 笠 木 岳 2864.2 赤 穂 長 野
				(真 砂 岳) 2862 檜ヶ岳 富山・長野
				双 六 岳 2860.3 檜ヶ岳 長野・岐阜

20/29

20/30

11/31

真 砂 岳	2860	立 山 富 山	山	● 志 比 須 岳 2860 乗鞍岳 岐阜 幸
(白河内岳)	2860	大阿原	静岡 岡	● 奥 岳(北岳) 2799.3 赤石岳 静岡・長野
別 岳	2860	黒 越 山	山	● ア サ ヶ 峰 2799.1 市野瀬山 山梨
鎌 子 岳	2858.9	御岳山	岐阜・長野	● 雄 華 岳(針ノ木) 2798.7 立 山 富山・長野
● 常 念 岳	2857	上高地	長 野	● 小 河 内 岳 2784 大阿原 長野・静岡
小 笠 原 岳	2855	市野瀬	長野・山梨	● 美 師 ヶ 岳 2780 黒 越 山 山梨
三 河 岳	2846.5	赤 穂 長 野		● 高 嶺 岳 2778.7 黒 越 山 山梨
三 ヶ 岳	2844.0	檜ヶ岳	富山・長野	● 栗 沢 岳 2778 赤 穂 長 野
● 南 駒 ヶ 岳	2841	赤 穂 長 野		● 駒 嶺 南 2776.6 立 山 富 山
● 三 俣 蓮 華 岳	2841.2	檜ヶ岳	岐阜・富山	● 小 蓮 華 山 2769 白馬岳 長野・新潟
				● 赤 野 岳 2768.7 檜ヶ岳 長 野
(ウツミ岳)	2841	檜ヶ岳	長 野	● 横 通 岳 2767.0 檜ヶ岳 長 野
● 黒 原 山(観音岳)	2840.9	黒 越 山	山梨	● 大 籠 岳 2767.0 大阿原 静岡・山梨
● 黒 原 五 郎 岳	2839.6	檜ヶ岳	岐阜 幸	● 西 岳 2762.9 檜ヶ岳 長 野
(朝ヶ峰)	2839.6	檜ヶ岳	岐阜 幸	● 新 田 岳 2750 檜ヶ岳 岐阜・長野
● 高 天 ヶ 原	2829	乗鞍岳	岐阜・長野	● 大 阿 原 岳 2750 立 山 富山・長野
● 横 岳(八ヶ岳)	2825	八ヶ岳	長野・山梨	● 鬼 岳 2750 立 山 富 山
● 相 安 岳	2825	檜ヶ岳	富 山	● 四 ヶ 岳 2744.6 乗鞍岳 岐阜 幸
● 羊 見 岳	2824.3	乗鞍岳	岐阜 幸	● 越 後 岳 2742.1 八ヶ岳 長野・山梨
● 針ノ木岳	2820.6	立 山 富山・長野		● 小 笠 原 王(朝ヶ峰) 2740 立 山 富 山
● 摩利支天山	2820	立 山 富 山	山	● 新 井 岳 2740 市野瀬 長野・山梨
(中ノ岳岳)	2820	市野瀬山	山梨	● 地 蔵 ヶ 岳 2740 黒 越 山 山梨
● 大 沢 岳	2819.4	赤石岳	静岡・長野	(北 酒 岳) 2740 檜ヶ岳 長 野
● 富士見岳	2817	乗鞍岳	岐阜・長野	(小 笠 岳) 2738 赤石岳 静岡・長野
● 五 嶺 岳	2814.1	大阿原	富山・長野	● 佐 藤 岳 2734 赤 穂 長 野
● 渡 天 岳	2814	檜ヶ岳	長 野	● 母 須 嶺 山 2730 赤 穂 長 野
● 前 刺(朝ヶ峰)	2813	立 山 富 山	山	(輪 尾 岳) 2727.7 赤 穂 長 野
● 伏 戸 岳	2812.8	上高地	岐 阜	● 烏 帽子 岳 2726 大阿原 静岡・長野
● 天 與 ヶ 嶺	2812.0	白馬岳	富 山	● 小 大 部 山 2725 市野瀬山 山梨
● 駒 子 岳	2812	白馬岳	富山・長野	(湯 沢 岳) 2724 赤 穂 長 野
● 阿 針 岳 岳	2807	八ヶ岳	長 野	● 駒 石 2721.1 赤 穂 長 野
(八ヶ岳)	2806	赤石岳	静岡・長野	(木曾駒ヶ岳)
● 上 河 内 岳	2803.0	赤石岳	静岡・長野	● 菅 山 2717.6 大阿原 静岡・山梨
● 小 河 内 岳	2801.6	大阿原	静岡・長野	● 馬 ヶ 岳 2715.8 市野瀬 長 野

10/33

10/33 40 = 21/129